

人間生活学科 実務家教員担当科目 授業概要(専門科目)
2019年度開講科目

授業科目の名称	講義等の内容	備考	単位
医療管理総論 (医)	<p>医療の成立における社会資源の必要性を理解し、医療資源とおして医療提供に係る「人的資源」「物的資源」「財的資源」「情報資源」を具体的に理解する。わが国の医療制度を理解し、人口推移を包含した地域医療構想、医療計画を理解する。わが国の医療提供体制、医療保険制度の特徴と、医療に関連する法規定を学習し、診療情報管理士の役割や医療実務に対応するための知識を充実させる。</p> <p>1. 医療資源① 2. 医療資源② 3. 日本の医療制度① 4. 日本の医療制度② 5. 医療の需要と供給① 6. 医療の需要と供給② 7. 地域医療(医療供給体制)① 8. 地域医療(医療供給体制)② 9. 地域医療(医療供給体制)③ 10. 医療関連の法規定① 11. 医療関連の法規定② 12. 医療関連の法規定③ 13. 医療関連の法規定④ 14. 医療関連の法規定⑤ 15. まとめ</p>	実務家教員 専任：梅本礼子	2
医療管理各論 I (医)	<p>病院という組織が使命を達成し、維持していくために必要な「経営管理」の知識、医療機関としての機能を果たすために専門職を有効に結びつけるため「医療管理」の知識、医療の分化・高度化により現代の病院には専門職種で成り立つ「チーム医療」の知識が必要である。病院を的確に維持、運営していく上で重要かつ基礎的な上記の知識を身につけることが目的であり、診療情報管理や地域連携業務経験を活かした授業である。</p> <p>1. 病院の経営管理① 2. 病院の経営管理② 3. 病院の経営管理③ 4. 病院の経営管理④ 5. 病院の経営管理⑤ 6. 病院の経営管理⑥ 7. 医療管理① 8. 医療管理② 9. 医療管理③ 10. 医療管理④ 11. 医療管理⑤ 12. 医療管理⑥ 13. 医療管理⑦ 14. チーム医療 15. まとめ</p>	実務家教員 専任：梅本礼子	2
診療情報管理論 I (医)	<p>診療情報管理を実施するための基礎として、診療情報の重要性を理解し、診療情報を適切に取り扱い、責任ある情報管理を行なう能力を身につける。</p> <p>本講では、診療情報管理の意義と役割について系統的に学習するとともに、診療情報管理に関わる法令や諸規則を含め、診療情報の記録方法が機能的にどのような構成やルールをとっているのかについて学ぶ。</p> <p>1. 診療情報管理の意義と役割-1 2. 診療情報管理の意義と役割-2 3. 診療情報管理の歴史-1 4. 診療情報管理の歴史-2 5. 診療情報管理と法規等-1 6. 診療情報管理と法規等-2 7. 診療情報管理と法規等-3 8. 診療情報管理と法規等-4 9. 診療情報管理と法規等-5 10. 診療情報管理と法規等-6 11. 診療記録の記載方法-1 12. 診療記録の記載方法-2 13. 診療情報の記載-1 14. 診療情報の記載-2 15. 診療情報の記載-3</p>	実務家教員 専任：有吉澄江	2
臨床医学総論 (医)	<p>小児に固有の特徴は、成長・発達していくことである。正常な成長・発達過程と、その妨げとなる様々な先天異常について講義する。生まれてきた子どもたちを守る取り組みとして、新生児マス・スクリーニングも採り上げる。</p> <p>臨床医学総論(外傷、先天異常)先天奇形、および染色体異常、損傷、中毒その他外因の影響について</p> <p>1. 遺伝学の基礎・常染色体異常 2. 性染色体異常・性分化疾患 3. 単一遺伝子疾患 4. 赤ちゃんの誕生・胎芽病 5. 筋・骨格系の先天異常 6. 腎尿路系の先天奇形 7. 軟部組織外傷、頭部外傷について学ぶ 8. 胸腹部外傷 9. 尿路生殖器の外傷 10. 中毒</p>	実務家教員 非常勤講師：宇野久光，作間俊治	1

<p>臨床医学各論Ⅱ (医)</p>	<p>新生物(腫瘍)は身体のすべての臓器・組織に発生する疾患であるので、新生物の分類、診断法、治療法は、その性質、発生部位等から多岐にわたる。 ここでは、新生物の発生組織部位・臓器、良性・悪性、原発性、続発性、移転性等新生物の概要を理解するとともに、主要な新生物を中心に、新生物の多彩な診断法、治療法を学び、適切なICD分類に結びつく基本的知識を修得する。</p> <p>1. 新生物総論 2. 新生物各論1 3. 新生物各論2 4. 新生物各論3 5. 新生物各論4 6. 新生物各論5 7. 新生物各論6 8. 新生物各論7 9. 新生物各論8 10. 新生物各論9</p>	<p>実務家教員 非常勤講師：小山幹夫</p>	<p>1</p>
<p>臨床医学各論Ⅲ (医)</p>	<p>血液疾患、内分泌異常、代謝異常について、病気の原因となる細胞やホルモンなどの名称と機能を学んでいきます。 正常な状態を基礎知識として持った上で病気の原因とメカニズム、それぞれの病気に対してどのような検査方法や治療法があるのかを学んでいきます。</p> <p>1. 血液成分の基礎 2. 免疫機能の基礎 3. 白血球の病気 4. 赤血球と血小板の病気 5. 血液凝固の病気 6. 免疫の病気 7. 内分泌の基礎 8. 内分泌の病気1 9. 内分泌の病気2 10. 栄養と代謝の病気</p>	<p>実務家教員 非常勤講師：山崎尚也</p>	<p>1</p>
<p>臨床医学各論Ⅶ (医)</p>	<p>妊娠初期から分娩・産後までと、周産期など最近の話題について講義する。 周産期情報管理と産科および周産期の病態について、その関連性について解説する。</p> <p>1. 正常妊娠-1 2. 正常妊娠-2 3. 妊娠の異常-1 4. 妊娠の異常-2 5. 合併症妊娠 6. 母子感染症 7. 正常分娩 8. 分娩の異常 9. 復習および補習1 10. 復習および補習2</p>	<p>実務家教員 非常勤講師：吉田信隆</p>	<p>1</p>
<p>臨床医学各論Ⅷ (医)</p>	<p>身体の形態、運動器に関わる骨、筋肉、関節、皮膚などの疾病について、その特徴、症状、診断法、治療法の概要を学び、各種診療記録の記載などを理解し、適切な病歴診断名につなげる知識を修得する。</p> <p>1. 筋骨格系の疾患総論 2. 筋骨格系の疾患各論1 3. 筋骨格系の疾患各論2 4. 筋骨格系の疾患各論3 5. 筋骨格系の疾患まとめ 6. 皮膚および皮下組織の疾患1 7. 皮膚および皮下組織の疾患2 8. 皮膚および皮下組織の疾患3 9. 皮膚および皮下組織の疾患4 10. 皮膚および皮下組織の疾患まとめ</p>	<p>実務家教員 非常勤講師：小山幹夫</p>	<p>1</p>
<p>解剖生理学 (医)</p>	<p>本講では、人体を構成する各器官の細胞・組織構築について理解することと、人体を維持・調節する生理的な機能について理解することを目標とする。</p> <p>1. 体液と内部環境/内分泌系 2. 循環器 3. 呼吸器 4. 消化器 5. 腎臓・尿路/ヒトの発生と生殖器 6. 生体防御機能 7. 骨格筋と骨格 8. 神経系 9. 口腔の解剖学1 10. 口腔の解剖学2 11. 復習とまとめⅠ 12. 復習とまとめⅡ 13. 復習とまとめⅢ 14. 復習とまとめⅣ 15. 復習とまとめⅤ</p>	<p>実務家教員 非常勤講師：城間紀之</p>	<p>2</p>

臨床検査一般 (医)	<p>現在臨床検査は、病名を決定するだけでなく治療方針の決定、予後、治療の判定、人間ドックやスクリーニングの検査など医療における役割は大きく、かつ広範囲に及んでいる。これら臨床検査の目的を理解し、医療従事者として必要な医学知識を習得する。</p> <p>1. 臨床検査とは 2. 血液データの読み方 3. 血液サンプリング時の留意点 4. 感染症と血液検査(1) 5. 感染症と血液検査(2) 6. 出血傾向と血栓(1) 7. 出血傾向と血栓(2) 8. 輸血と副作用(1) 9. 輸血と副作用(2) 10. 腎機能検査と尿検査(1) 11. 腎機能検査と尿検査(2) 12. 肝機能検査 13. 内分泌の検査(1) 14. 内分泌の検査(2) 15. 感染症の検査</p>	実務家教員 専任：小野寺利恵	2
臨床医学・医療用語 (医)	<p>医療に関わる者として、診療録内容の読み取りや、医療従事者間の意思疎通に必要な専門用語を、解剖生理から診断、治療にいたるまで広範囲に亘って学修する。 英語で記載された診療録を把握できるようにするための医学英語を学修する。 各臨床分野の内容と結びつけながら理解を深める。</p> <p>1. 循環器 2. 呼吸器 3. 消化器 4. 内分泌・代謝 5. 神経 6. 感覚器 7. 骨格系 8. 皮膚・感染・寄生虫 9. 医療用語1 10. 医療用語2 11. 医療英単語1 12. 医療英単語2 13. 医療英単語3 14. 医療英単語4 15. 医療英単語5</p>	実務家教員 非常勤講師：朝原秀昭	2
情報科学 (医) (オ) (心)	<p>高度情報化社会において、情報技術を活用できる人材が欠かせない。本講義では社会人として備えておくべき共通の情報基礎として、情報機器及びシステムの理解と活用、担当業務の理解と関連問題の解決を図り、安全に情報の収集と応用を行うことや、上位者の指導の下業務分析及びシステム化支援を行うなどの役割の学習を重視している。科目はコンピュータシステムと情報の基礎を習得し、ITパスポート資格試験を目指す。</p> <p>1. コンピュータシステム(1)コンピュータの構成要素(1)：五大装置;2. コンピュータシステム(2)コンピュータの構成要素(2)：記憶メディア;3. コンピュータシステム(3)システム構成要素;4. コンピュータシステム(4)ソフトウェア(1)：基本ソフトとファイル管理;5. コンピュータシステム(5)ソフトウェア(2)：応用ソフトについて;6. コンピュータシステム(6)ハードウェアについて;7. 理解度確認 コンピュータシステムに関する理解度チェック;8. 技術要素(1) ヒューマンインタフェース、マルチメディア;9. 技術要素(2) データベースについて;10. 技術要素(3) ネットワークについて;11. 技術要素(4) セキュリティ(1)：情報資産と情報セキュリティ;12. 技術要素(5) セキュリティ(2)：ネットワーク情報セキュリティ;13. 基礎理論(1) 離散数学、応用数学と情報理論;14. 基礎理論(2) アルゴリズムとプログラミング;15. まとめ 章末問題、期末試験について。</p>	実務家教員 専任：章志華	2
情報管理論 (医) (オ) (心)	<p>高度情報化社会において、情報技術を活用できる人材が欠かせない。本講義では社会人として備えておくべき共通の情報基礎として、情報機器及びシステムの理解と活用、担当業務の理解と関連問題の解決を図り、安全に情報の収集と応用を行うことや、上位者の指導の下業務分析及びシステム化支援を行うなどの役割の学習を重視している。科目はコンピュータシステムと情報の基礎を習得し、ITパスポート資格試験を目指す。</p> <p>1. ガイダンス 授業の進め方、成績評価、ITパスポート試験について;2. 企業と法務(1) 企業活動、業務の把握;3. 企業と法務(2) 資産管理について;4. 企業と法務(3) 取引関連法規と標準化;5. 経営戦略(1) 経営戦略マネジメントについて;6. 経営戦略(2) 技術戦略マネジメントについて;7. システム戦略 システム戦略とシステム企画;8. 中間確認テスト 中間確認テストと解説;9. 開発技術 システム開発技術とソフトウェア開発管理技術;10. プロジェクトマネジメント;11. サービスマネジメント;12. ITパスポート試験対策(1) CBT試験模擬(1);13. ITパスポート試験対策(2) CBT試験模擬(2);14. 総合確認問題 理解度チェック問題;15. まとめ 期末試験;</p>	実務家教員 専任：章志華	2

<p>医事コンピュータ実務 (医)</p>	<p>診療録や伝票から得られた情報から、診療報酬算定対象となる医療行為を抽出し、算定の根拠と要件を確認し、適正な医療費の請求とレセプト作成を心がけなければならない。そのためには、診療録の読解力と診療報酬点数表の理解が重要になる。医事オペレーターには、より高度な専門知識と正確かつ、迅速な処理能力が求められる。医学・医療、薬学、医療保険制度や診療報酬点数等総合的に理解した医事オペレーターをめざす。</p> <p>1. 平成30年度診療報酬点数表の理解-1 2. 平成30年度診療報酬点数表の理解-2 3. 平成30年度診療報酬点数表の理解-3 4. 平成30年度診療報酬点数表の理解-4 5. 維持コンピュータの基本操作 6. 外来会計-1 7. 外来会計-2 8. 外来会計-3 9. 外来会計-4 10. 入院カルテ-1 11. 入院カルテ-2 12. 入院カルテ-3 13. 入院カルテ-4 14. 入院カルテ-5 15. 入院カルテ-6</p>	<p>実務家教員 専任：有吉澄江</p>	<p>1</p>
<p>データ構造とアルゴリズム (オ)</p>	<p>コンピュータのプログラムは構造よく、効率的に組み込む必要がある。この授業は、プログラムの処理手順を理解し、処理対象となるデータの特性と構造についても学習する。また応用としてプログラミング入門知識や問題を解決するための手法など情報処理基本能力と論理的思考・解析能力を修得する。これら知識と技術の学習により、ソフトウェアを開発するために必要な基本的な素養を養う。</p> <p>1. データ型と構造 データ構造・アルゴリズムの基本;2. 処理手順の基本 データ処理手順入門;3. アルゴリズムの表現 流れ図の基本;4. 流れ図の理解 応用問題を流れ図で表現;5. 基本構造 (1) 配列について;6. 基本構造 (2) データの並べ替と配列;7. 理解度チェック 1 理解度問題と解説;8. リスト構造とソート リストの基本とソート;9. 繰り返し処理 ループ及び二重ループ;10. 分岐処理 条件分岐及び多重条件処理;11. 木構造について 木構造の基本概念;12. 二分木と探索 木の探索;13. 再帰呼出しと分割統治 再帰処理のアルゴリズム;14. プログラミング言語 Javascriptで理解するアルゴリズム;15. 理解度チェック 2 理解度問題と解説、期末試験について。</p>	<p>実務家教員 専任：章志華</p>	<p>2</p>
<p>画像処理 (オ) (心)</p>	<p>現在の仕事では、単なるワープロや表計算ソフトを使うだけでなく、写真の加工や修正など、画像処理技術も求められるようになった。例えば、ウェブデザイン、チラシ作成やポスター作りなどでは、画像処理ソフトを用いて写真を美しく見せたり、目的に合った画像に仕上げるのがよくある。この科目はPhotoshopとIllustratorの基本機能と使い方、図形オブジェクトと文字、写真加工と合成などの基礎技術を実践的に学ぶ。</p> <p>1. Illustrator&Photoshopの基本 Illustrator&Photoshopの基本機能、画面構成、解像度・カラーモード・色空間などの基本概念;2. Photoshopの基本 Photoshopの基本画面、基本機能及び基本操作について;3. Photoshopの基本操作 (1) 覚えておきたい機能;4. Photoshopの基本操作 (2) レイヤー操作と色調補正;5. Photoshopの基本操作 (3) 選択範囲の作成;6. Photoshopの基本操作 (4) 色の設定とペイントの操作;7. Photoshopの基本操作 (5) レイヤーマスクの使用;8. Illustratorの基本操作 (1) 図形や線を描く、グラフ、画像トレース;9. Illustratorの基本操作 (2) オブジェクトの選択と基本的な変形;10. Illustratorの基本操作 (3) 色と透明度の設定;11. Illustratorの基本操作 (4) オブジェクトの編集と合成;12. Illustratorの基本操作 (5) 文字、線の設定、文字編集とレイアウト;13. Illustrator&Photoshopの連携 Illustratorへの画像配置、Photoshop用の画像を書き出す;14. 総合演習 (1) チラシやポスター作製、Web再利用とDTP印刷;15. 総合演習 (2) 学習成果の評価に、チラシやポスター作品の制作、レポートのまとめ。</p>	<p>実務家教員 専任：章志華</p>	<p>2</p>
<p>ウェブプログラミング演習 (オ)</p>	<p>Webページは基本的にHTMLで記述したものであるが、動的なページ作成するのにプログラムの働きが必要になる。この講義では、HTML、CSSのほか、JavaScript言語を用いた動的なWebページ、関連するプログラミングの基本概念や基礎技法について学ぶ。実例の作成により、情報処理の深い意味を理解し、特に実際にWebページへの応用できる技術を中心に講義を展開する。</p> <p>1. イントロダクション 2. アウトプットの基本 3. JavaScriptの文法と基本機能(1) 4. JavaScriptの文法と基本機能(2) 5. インプットとデータ加工(1) 6. インプットとデータ加工(2) 7. 基本テクニック(1) 8. 基本テクニック(2) 9. 基本テクニック(3) 10. 基本テクニック(4) 11. 基本テクニック(5) 12. jQuery入門(1) 13. jQuery入門(2) 14. 外部データ活用 15. まとめ</p>	<p>実務家教員 専任：章志華</p>	<p>2</p>

簿記基礎 (オ)(心)	<p>企業の経理分野では、コンピューターを利用した合理化・効率化が飛躍的な進化を遂げてますが、コンピューターは計算・集計の道具であり、データをもとに分析し決定するのは、やはり簿記の知識を持った人であることに変わりはありません。この授業では、将来就職した後に必ず役立つ、簿記の基礎知識を体系的に学習します。</p> <p>1. ガイダンス 2. 日常の手続き(1) 3. 日常の手続き(2) 4. 日常の手続き(3) 5. 商品売買(1) 6. 商品売買(2) 7. 現金 8. 当座預金 9. 小口現金 10. 手形(1) 11. 手形(2) 12. その他の期中取引(1) 13. その他の期中取引(2) 14. その他の期中取引(3) 15. 試算表の作成</p>	実務家教員 非常勤講師：吉田智子	2
簿記応用 (オ)(心)	<p>企業の経理分野では、コンピューターを利用した合理化・効率化が飛躍的な進化を遂げてますが、コンピューターは計算・集計の道具であり、データをもとに分析し決定するのは、やはり簿記の知識を持った人であることに変わりはありません。この授業では、将来就職した後に必ず役立つ、簿記の基礎知識を体系的に学習します。</p> <p>1. 試算表の作成(1) 2. 試算表の作成(2) 3. 決算の手続き(1) 4. 決算の手続き(2) 5. 決算の手続き(3) 6. 決算の手続き(4) 7. 決算の手続き(5) 8. 決算の手続き(6) 9. 決算の手続き(7) 10. 決算の手続き(8) 11. 伝票式合計 12. 総合問題演習(1) 13. 総合問題演習(2) 14. 総合問題演習(3) 15. 簿記応用のまとめ</p>	実務家教員 非常勤講師：吉田智子	2
社会心理学 (オ)(心)	<p>人間は社会的動物であり、社会や集団のさまざまなあり様に影響されながら生きている。人間が社会の中でどのように行動し、どのように思考するのか、集団において個人の認知や行動がどのように変わりうるのかを、実証的に解明しようとする学問領域が社会心理学である。本講義では、個人と社会・集団との相互作用について、日常の出来事や社会で起きている様々な事象を取り上げながら解説していく。</p> <p>1. オリエンテーション: 社会心理学とは？ 2. 「自己」について 3. 対人認知 4. 偏見とステレオタイプ 5. 命令と強制 6. 援助行動と攻撃行動 7. 集団が及ぼす影響 8. 群衆心理 9. 情報化社会とメディア、マスコミュニケーション 10. 流行と消費者行動 11. 説得と態度変容 12. 宗教・信仰とカルト問題 13. コミュニティとソーシャルサポート 14. 犯罪と防犯 15. ジェンダーの心理学</p>	実務家教員 専任:高田晃治	2
発達心理学 I (オ)(心)	<p>人間はこの世に生を受け、死に至るまでの生涯にわたって成長し続ける。発達心理学とは、人間の一生に及ぶ発達の過程をさまざまな側面から捉え、検証する学問である。本講義では特に人間の発生から青年期までの発達過程を中心にその特徴をとらえていく。</p> <p>1. 発達心理学とは？ 2. 発達段階と発達課題 3. 遺伝と環境 4. 発達過程(1): 受精から誕生まで 5. 発達過程(2): 乳児期の発達 6. 発達過程(3): 幼児期の発達 7. 発達過程(4): 学童期の発達 8. 発達過程(5): 思春期・青年期の発達 9. 情動の発達 10. 認知・志向の発達 11. 子どもと遊び 12. 子どもの描画 13. 子どものファンタジー 14. 子どもの対人関係 15. まとめ</p>	実務家教員 専任:高田晃治	2
医療管理各論 II (医)	<p>わが国の医療制度の特徴の一つである国民皆保険制度の維持には、国民総医療費の抑制も含めた医療制度改革が求められる。今日の診療報酬制度はDPC制度の導入等、大きな変化が続いている。DPCの請求には、診断名や診療行為等が規則に基づいて適正に記録され、管理されていることが前提となっている。本講では、医療保険・介護保険を理解し、診療報酬制度・請求までを学ぶことで、診療情報管理の重要性を知る。</p> <p>1. 医療保険制度 - 1 2. 医療保険制度 - 2 3. 医療保険制度 - 3 4. 医療保険制度 - 4 5. 医療保険制度 - 5 6. 医療保険制度 - 6 7. 医療保険制度 - 7 8. わが国の診断群分類 - 1 9. わが国の診断群分類 - 2 10. わが国の診断群分類 - 3 11. わが国の診断群分類 - 4 12. わが国の診断群分類 - 5 13. わが国の診断群分類 - 6 14. 介護保険制度 - 1 15. 介護保険制度 - 2</p>	実務家教員 専任：有吉澄江	2

<p>医療管理各論Ⅲ (医)</p>	<p>質の高い安全な医療を提供するためには、医療安全と医療の質管理が極めて重要である。医療事故の未然防止と事故後の適切な対応が医療安全活動の本質である。</p> <p>2015年に始まった医療事故調査制度や医療事故の原因究明、再発防止等への理解と対応が求められる。さらに、DPC/PDPSやNDB等、診療報酬制度におけるデータの活用が重要となる。</p> <p>1. 安全管理-1 2. 安全管理-2 3. 安全管理-3 4. 安全管理-4 5. 安全管理-5 6. 安全管理-6 7. 医療の質管理-1 8. 医療の質管理-2 9. 医療の質管理-3 10. 医療の質管理-4 11. 医療の質管理-5 12. データの活用-1 13. データの活用-2 14. データの活用-3 15. まとめ</p>	<p>実務家教員 専任：有吉澄江</p>	<p>2</p>
<p>診療情報管理論Ⅱ (医)</p>	<p>診療情報管理に関する業務は時代と共に多様化しており、より専門的な知識が求められる。医療に貢献する診療情報管理を実践していくための基礎を学習する。さらに、診療情報管理を実践する場で容易に想起され、対応できる基礎知識を修得する。</p> <p>1. 診療情報管理士について 2. 診療情報管理士に求められる資質 3. 診療情報管理士の基本業務-1 4. 診療情報管理士の基本業務-2 5. 個人情報保護の視点からの保管管理 6. 紙カルテ運用における診療情報管理-1 7. 紙カルテ運用における診療情報管理-2 8. 電子カルテ運用における診療情報管理-1 9. 電子カルテ運用における診療情報管理-2 10. 診療情報の提供に係る業務-1 11. 診療情報の提供に係る業務-2 12. 診療情報管理士による改善への取り組み-1 13. 診療情報管理士による改善への取り組み-2 14. 診療情報管理士の活動組織-1 15. 診療情報管理士の活動組織-2</p>	<p>実務家教員 専任：梅本礼子</p>	<p>2</p>
<p>診療情報管理論Ⅲ (医)</p>	<p>今日の診療情報管理士は、多種多様な業務を担っている。これまで、診療情報管理Ⅰ・Ⅱで学んだ診療情報管理士の基本的実務の具体的実務として、DPC/PDPS、医師事務作業補助者、がん登録について、基礎知識を学習する。</p> <p>1. DPC制度と実務-1 2. DPC制度と実務-2 3. DPC制度と実務-3 4. DPC制度と実務-4 5. DPC制度と実務-5 6. DPC制度と実務-6 7. DPC制度と実務-7 8. 医師事務作業補助者業務-1 9. 医師事務作業補助者業務-2 10. 医師事務作業補助者業務-3 11. がん登録の実務-1 12. がん登録の実務-2 13. がん登録の実務-3 14. データベース-1 15. データベース-2</p>	<p>実務家教員 専任：有吉澄江</p>	<p>2</p>
<p>国際統計分類Ⅰ (医)</p>	<p>「分類」とは、さまざまな現象を一定の法則にしたがって、同種類・類似集団に振り分けることを指す。診療記録中にある疾病や身体機能等に関連する情報をさまざまな目的に活用するものである。</p> <p>本講では、人体構造や臨床医学等の知識を活かし、「国際疾病分類」の概念を基に、医療の場における疾病や傷害、機能、死因の選択等についての分類手法を学ぶ。</p> <p>1. 国際疾病分類論-1 2. 国際疾病分類論-2 3. 国際疾病分類論-3 4. 国際統計分類ファミリー論-1 5. 国際統計分類ファミリー論-2 6. 国際統計分類ファミリー論-3 7. 国際統計分類ファミリー論-4 8. 国際統計分類ファミリー論-5 9. 国際統計分類ファミリー論-6 10. 国際統計分類ファミリー論-7 11. 国際統計分類ファミリー論-8 12. 国際疾病分類の利用-1 13. 国際疾病分類の利用-2 14. 国際疾病分類の利用-3 15. 国際疾病分類の利用-4</p>	<p>実務家教員 専任：有吉澄江</p>	<p>2</p>
<p>国際統計分類Ⅱ (医)</p>	<p>「国際統計分類演習Ⅰ」に引き続き、各章の分類体系および特徴を理解し、分類手法を学ぶ。</p> <p>退院時要約や死亡診断書などにより、診療録の記載内容を把握し、統計上必要な分類コードを正確に選択できるよう、総合的に学習する。</p> <p>1. 国際統計分類Ⅱ-1 2. 国際統計分類Ⅱ-2 3. 国際統計分類Ⅱ-3 4. 国際統計分類Ⅱ-4 5. 国際統計分類Ⅱ-5 6. 国際統計分類Ⅱ-6 7. 国際統計分類Ⅱ-7 8. 国際統計分類Ⅱ-8 9. 国際統計分類Ⅱ-9 10. 国際統計分類Ⅱ-10 11. 国際統計分類Ⅱ-11 12. 国際統計分類Ⅱ-12 13. 国際統計分類Ⅱ-13 14. 国際統計分類Ⅱ-14 15. 国際統計分類Ⅱ-15</p>	<p>実務家教員 専任：有吉澄江</p>	<p>2</p>

<p>医療統計学 I (医)</p>	<p>医療における意思決定は診療情報に基づいて行われる。診療記録に含まれる診療情報を活用し、医療施設、医療職、患者、さらに医療政策を支援し、医療の質向上に寄与することが求められている。診療情報を活用するための基礎として統計処理の基礎知識、根拠に基づいた医療、データ処理の実際を学び、医療に従事する者に求められる診療情報のクオリティマネジメントの考え方を身に付けることを目的とする。</p> <p>1. 統計的方法 2. データの要約(記述統計学の方法) 3. データの要約(記述統計学の方法) 4. データの要約(記述統計学の方法) 5. データの要約(記述統計学の方法) 6. 統計学的推測の基礎 7. 統計学的推測の基礎 8. 統計学的推測の基礎 9. 統計学的推測の基礎 10. 統計的仮説検定 11. 統計的仮説検定 12. 仮説検定に伴う2種類の誤り 13. よく使う検定手法 14. よく使う検定手法 15. 2つの量的変数の関係</p>	<p>実務家教員 非常勤講師：清水英俊</p>	<p>2</p>
<p>臨床医学各論IV (医)</p>	<p>精神疾患、神経疾患、眼・視覚障害、耳・聴覚障害の概要を学び、病態から診断法・治療法の流れを理解することを目的とします。 疾患・診断名と診療録に記載された検査手段・治療法などを適切に結び付け、診療情報管理に役立てるよう基本的知識を習得します。</p> <p>1. 精神の疾患(1) 2. 精神の疾患(2) 3. 精神の疾患(3) 4. 精神の疾患(4) 5. 神経系の疾患(2) 6. 神経系の疾患(2) 7. 神経系の疾患(3) 8. 神経系の疾患(4) 9. 眼・視覚に関する疾患 10. 耳・聴覚に関する疾患</p>	<p>実務家教員 非常勤講師：朝原秀昭</p>	<p>1</p>
<p>臨床医学各論VI (医)</p>	<p>病気の原因や症状の起こるメカニズムの基礎を学び、臨床医学を学ぶために必要な基礎知識を修得する。特に、消化器・泌尿器系の疾病について、その特徴、症状・所見、診断法、治療法の概要を学び、各種診療記録の記載などを理解し、適切な病歴診断名につなげる知識を習得する。</p> <p>1. オリエンテーション・消化器系疾患1 2. 消化器系疾患2 3. 消化器系疾患3 4. 消化器系疾患4 5. 消化器系疾患5 6. 腎尿路生殖器系疾患1 7. 腎尿路生殖器系疾患2 8. 腎尿路生殖器系疾患3 9. 腎尿路生殖器系疾患4 10. 乳房および女性生殖器疾患</p>	<p>実務家教員 非常勤講師：橋本成史</p>	<p>1</p>
<p>臨床心理学 (医)(心)</p>	<p>臨床心理学は何よりも実践的な心理学である。心理臨床の現場は人と人との出会いの中にあり、関係性の中で経験が積み重ねられ、新たな発見が生まれ続ける。本講義では臨床心理学の諸理論および心理臨床の実践を紹介すると共に、人間を理解すること、困難を抱えながらも自分らしく生きていくこと、人格の成長と成熟といったことについても考えていきたい。</p> <p>1. オリエンテーション:臨床心理学とは? 2. 臨床心理学の理論(1):精神分析学 3. 臨床心理学の理論(2):分析心理学 4. 臨床心理学の理論(3):認知行動療法 5. 臨床心理学の理論(4):人間中心アプローチ 6. 臨床心理学の理論(5):様々な心理療法 7. 臨床心理アセスメント 8. 子どもの心の問題 9. 思春期・青年期の心の問題 10. 臨床心理学的理解と支援(1):発達障害 11. 臨床心理学的理解と支援(2):神経症 12. 臨床心理学的理解と支援(3):パーソナリティ障害 13. 臨床心理学的理解と支援(4):精神障害 14. 臨床心理学的理解と支援(5):「うつ」について 15. 臨床心理学的理解と支援(6):高次脳機能障害</p>	<p>実務家教員 専任:高田晃治</p>	<p>2</p>
<p>電子会計実務基礎 (医)(オ)(心)</p>	<p>企業では、伝票処理や財務諸表の作成といった会計実務には、会計ソフトが使われています。このような会計ソフトを利用した会計実務を「電子会計」と呼びます。企業の経理処理で最も利用されている弥生会計のソフトを使い、電子会計の基礎を学びます。</p> <p>1. ガイダンス 2. 企業活動と会計処理(1) 3. 企業活動と会計処理(2) 4. 会計ソフトの操作(1) 5. 会計ソフトの操作(2) 6. 会計ソフトの操作(3) 7. 企業の業務と会計処理(1) 8. 企業の業務と会計処理(2) 9. 企業の業務と会計処理(3) 10. 企業の業務と会計処理(4) 11. 企業の業務と会計処理(5) 12. 企業の業務と会計処理(6) 13. 会計データの入力処理と集計 14. 会計情報の活用(1) 15. 会計情報の活用(2)</p>	<p>実務家教員 非常勤講師：吉田智子</p>	<p>2</p>

電子会計実務応用 (医) (オ) (心)	<p>企業では、伝票処理や財務諸表の作成といった会計実務には、会計ソフトが使われています。このような会計ソフトを利用した会計実務を「電子会計」と呼びます。企業の経理処理で最も利用されている弥生会計のソフトを使い、電子会計の基礎から応用を学びます。</p> <p>1. ガイダンス 2. 個別論点 3. 決算の手続き 4. 会計データの新規作成(導入処理)(1) 5. 会計データの新規作成(導入処理)(2) 6. 会計データの新規作成(導入処理)(3) 7. 製造業における原価情報(1) 8. 製造業における原価情報(2) 9. 製造業における原価情報(3) 10. 予算管理と経営分析指標(1) 11. 予算管理と経営分析指標(2) 12. 収益構造分析と短期利益計画(1) 13. 収益構造分析と短期利益計画(2) 14. 資金の管理 15. 電子会計のまとめ</p>	実務家教員 非常勤講師：吉田智子	2
情報管理特論Ⅰ (医) (オ) (心)	<p>担当業務の問題を把握し、解決を提案できるには体系的な考え方や論理的な思考力と問題分析と解決手法の知識が重要である。この科目は特論Ⅱとセットにして基本的な研究スタイルやプロセスを体験できる。実際の問題を発見し、解決方法の提案や問題の表現方法、そして人の前でプレゼンできる能力などを養う。Ⅰでは、研究の基本的な考え方、基本ツールの使い方、情報処理活用などを学習する。</p> <p>1. 講義ガイダンス 2. 前期共通の学習内容(1) 3. 前期共通の学習内容(2) 4. EXCELでデータ処理(1) 5. EXCELでデータ処理(2) 6. EXCELでデータ処理(3) 7. EXCELでデータ処理(4) 8. プレゼン資料作成(1) 9. プレゼン資料作成(2) 10. プレゼン資料作成(3) 11. 研究の基本を理解する(1) 12. 研究の基本を理解する(2) 13. 研究の基本を理解する(3) 14. 研究テーマを決める 15. まとめ</p>	実務家教員 専任：章 志華	1
情報管理特論Ⅱ (医) (オ) (心)	<p>本授業は前期の情報管理特論Ⅰの後継科目です。特論Ⅰで学んだ成果をもとに、各自の研究テーマを決定し、関連文献や資料の調査、テーマに沿って課題研究を進めていきます。得られた結果をまとめ、レジュメや発表資料を作成し、最終的に特論発表会の場でプレゼンテーションを行います。一連の取り組みを経て、問題解決の方法やプレゼンテーションの基本を含む情報処理研究のプロセスを体験的に学ぶ。</p> <p>1. テーマ決め 2. テーマ確認と調整 3. 研究進め方 4. データ処理について 5. 研究テーマの明確化 6. 調査や課題の計画 7. 研究の進行(1) 8. 研究の進行(2) 9. 研究の進行(3) 10. 研究の進行(4) 11. 研究のまとめ(1) 12. 研究のまとめ(2) 13. 研究のまとめ(3) 14. 研究のまとめ(4) 15. 研究発表</p>	実務家教員 専任：章 志華	1
人間心理特論Ⅰ (医) (オ) (心)	<p>本授業では、心理学研究を進めるにあたって必要な基礎知識や手続きを学ぶ。また、文献を検索して読解すること、実験や調査を実施すること、データを分析すること、レポートを執筆して説明することなどを体験的に学習する。そして、各自が自分が深く知りたい、調べたいテーマを考え、後期からの人間心理特論Ⅱに向けて準備をしていく。</p> <p>1. オリエンテーション 2. 心理学の研究法 3. テーマの設定 4. 文献検索 5. 心理学文献の読み方 6. 研究の進め方 7. 質問紙による研究(1) 8. 質問紙による研究(2) 9. 観察・面接による研究 10. 文献研究 11. 実験による研究 12. データの分析 13. 心理学レポートの書き方 14. 心理学研究の倫理 15. 心理学研究に向けて</p>	実務家教員 専任：高田晃治	1
人間心理特論Ⅱ (医) (オ) (心)	<p>本授業では、前期の「人間心理特論Ⅰ」に引き続き、心理学研究を進めるにあたって必要な基礎知識や手続きを学ぶ。本授業では各自研究テーマを具体的に決定し、先行研究を調べ、実際に調査し、得られた結果について考察し、発表資料を作成し、最終的に特論発表会の場でプレゼンテーションを行うまでの、心理学研究のプロセスを体験的に学習する。</p> <p>1. 課題の発表(1) 2. 課題の発表(2) 3. 調査・研究にあたっての諸注意(1) 4. 調査・研究にあたっての諸注意(2) 5. 研究グループの決定 6. 研究テーマの具体化(1) 7. 研究テーマの具体化(2) 8. 質問紙の作成(1) 9. 質問紙の作成(2) 10. データの収集 11. 分析と解釈(1) 12. 分析と解釈(2) 13. 研究抄録の作成(1) 14. 研究抄録の作成(2) 15. プレゼンテーション</p>	実務家教員 専任：高田晃治	1

<p>診療情報管理特論Ⅰ (医) (オ) (心)</p>	<p>地域診療、医療体制、診療情報管理に関するテーマを選択し発表する。2名から3名程度のグループによる、ワークショップ形式を取り入れる。 テーマ：病院機能と診療情報管理士の役割、診療情報の活用、診療記録の充実、患者への情報提供などについて学習する。</p> <p>1. 授業ガイダンス 2. 研究の基礎(1) 3. 研究の基礎(1) 4. 研究の基礎(1) 5. 研究の基礎(1) 6. 研究の基礎(1) 7. 四半期まとめ 8. 情報収集(1) 9. 情報収集(1) 10. 情報収集(1) 11. 情報収集(1) 12. 上半期まとめ 13. 課題抽出 14. 課題設定 15. まとめ</p>	<p>実務家教員 専任：梅本礼子</p>	<p>1</p>
<p>診療情報管理特論Ⅱ (医) (オ) (心)</p>	<p>研究のテーマを決定し、収集した情報を整理する。 特論発表会のために、抄録およびスライドを完成する。</p> <p>1. 特論Ⅱ-1 2. 特論Ⅱ-2 3. 特論Ⅱ-3 4. 特論Ⅱ-4 5. 特論Ⅱ-5 6. 特論Ⅱ-6 7. 特論Ⅱ-7 8. 特論Ⅱ-8 9. 特論Ⅱ-9 10. 特論Ⅱ-10 11. 特論Ⅱ-11 12. 特論Ⅱ-12 13. 特論Ⅱ-13 14. 特論Ⅱ-14 15. 発表リハーサル</p>	<p>実務家教員 専任：梅本礼子</p>	<p>1</p>
<p>医療関係特論Ⅰ (医) (オ) (心)</p>	<p>研究テーマの決定し、収集した情報を整理する。 主研究者は共同研究者と役割分担を決め、研究を仕上げる。(抄録・スライド作成) 日本診療情報管理学会の学生セッションで発表する者は、前期に仕上げ9月21日～22日に行われる第43回日本診療情報管理学会に参加する。後期は、特論Ⅱとして抄録およびスライドを仕上げる。</p> <p>1. 特論Ⅱ-1 2. 特論Ⅱ-2 3. 特論Ⅱ-3 4. 特論Ⅱ-4 5. 特論Ⅱ-5 6. 特論Ⅱ-6 7. 特論Ⅱ-7 8. 特論Ⅱ-8 9. 特論Ⅱ-9 10. 特論Ⅱ-10 11. 特論Ⅱ-11 12. 特論Ⅱ-12 13. 特論Ⅱ-13 14. 特論Ⅱ-14 15. リハーサル</p>	<p>実務家教員 専任：有吉澄江</p>	<p>1</p>
<p>医療関係特論Ⅱ (医) (オ) (心)</p>	<p>病院の機能および診療情報管理等に関する下記のテーマから、一番関心のある項目を選択し発表する。2名から3名程度のグループによる、ワークショップ形式で行う。希望者は、日本診療情報管理学会学術大会に参加・発表する テーマ：病院機能と診療情報管理士の役割、医療安全管理、診療情報の活用、診療情報の開示、データ分析 等</p> <p>1. 授業ガイダンス 2. 研究の基礎(1) 3. 研究の基礎(2) 4. 研究の基礎(3) 5. 研究の基礎(4) 6. 研究の基礎(5) 7. まとめ① 8. 情報収集(1) 9. 情報収集(2) 10. 情報収集(3) 11. まとめ② 12. 情報収集(4) 13. まとめ③ 14. 課題設定 15. まとめ④</p>	<p>実務家教員 専任：有吉澄江</p>	<p>1</p>
<p>インターンシップ(医療秘書実習) (医)</p>	<p>この授業は講義とロールプレイ、夏季休業中に実施する医療秘書実務実習の事前学習である。 講義では、医療秘書実務士の資質や社会人として求められる医療秘書像の確認、連携する医師事務作業補助や診療情報管理の業務等、病院業務を円滑に行なうための心構えや必要な知識・実務を学ぶ。</p> <p>1. 事前ガイダンス① 2. 医療業務等の基礎① 3. 医療業務等の基礎② 4. 医療業務等の基礎③ 5. 実習室での学習について 6. 病院実習の実際を知る① 7. 病院実習の実際を知る② 8. 病院実習の目的と心構え① 9. 病院実習の目的と心構え② 10. 業務の流れを体験する① 11. 業務の流れを体験する② 12. 業務の流れを体験する③ 13. 業務の流れを体験する④ 14. 業務の流れを体験する⑤ 15. 医療秘書実習に向けて</p>	<p>実務家教員 専任：有吉澄江、梅本礼子</p>	<p>2</p>
<p>特別研究 (医) (オ) (心)</p>	<p>特別研究は、研究論文あるいは研究制作のどちらかとし、原則として人間生活学科専任教員の指導のもとに行い、個人研究、共同研究のどちらでもよいこととする。また、研究テーマは、指導教員と相談のうえで決定し、適宜、指導教員の指示を受けながら、研究を進めていく。 特別研究は、2年間の勉学の総仕上げである。学生の意欲的な取組みを期待したい。</p> <p>1. 特別研究について 2. 研究テーマの決定 3. 研究テーマの決定 4. 研究論文、研究制作の進行 5. 研究論文、研究制作の進行 6. 研究論文、研究制作の進行 7. 研究論文、研究制作の進行 8. 研究論文、研究制作の進行 9. 研究論文、研究制作の進行 10. 研究論文、研究制作の進行 11. 研究論文、研究制作の進行 12. 研究論文、研究制作の進行 13. 研究論文、研究制作の進行 14. 研究論文、研究制作の進行 15. 研究論文、研究制作の進行</p>	<p>実務家教員 専任：有吉澄江、梅本礼子、章志華、高田晃治</p>	<p>4</p>

電子カルテシステム実務総論 (医)	<p>厚生労働省通知(1999年4月)により「真正性」、「見読性」、「保存性」の3基準を満たしたうえで、診療録等の電子的保存が認められたことにより、電子カルテの導入する医療機関が徐々に増えてきている。本講では、外来・入院受付での患者情報の登録から、医師事務作業補助者による診療録記載や診断書等の各医療文書作成などの代行入力・承認業務、会計までの一連の業務について、教育システムを使用して学習する。</p> <p>1. 電子カルテシステムとは・平成30年度診療報酬改定 2. IT化の流れと診療録の電子化への道① 3. IT化の流れと診療録の電子化への道② 4. 電子カルテの定義、機能等 5. レセプト電算処理システム等 6. 医療情報について・医療情報の今後の展開 7. ソフトの操作方法・外来① 8. ソフトの操作方法・外来② 9. ソフトの操作方法・外来③ 10. ソフトの操作方法・外来④ 11. ソフトの操作方法・外来⑤ 12. 入院例題① 13. 入院例題①-2 14. 入院例題② 15. 入院例題②-2</p>	実務家教員 専任：有吉澄江	1
電子カルテシステム実務演習 (医)	<p>前期で習得した電子カルテシステムの基礎知識を活かして、外来・入院の事例を、受付業務から医師事務作業補助者の各種医療文書や経過記録等の代行業務・医師の承認、薬剤クラーク、会計業務、レセプト発行までの一連の操作方法を演習する。</p> <p>1. 医療文書・医療記録 2. 医師事務作業補助者の業務① 3. 医師事務作業補助者の業務② 4. 医師事務作業補助者の業務③ 5. 外来例題① 6. 外来例題② 7. 外来例題③ 8. 外来例題④ 9. 外来例題⑤ 10. 入院例題① 11. 入院例題② 12. 入院例題③ 13. 入院例題④ 14. 入院例題⑤ 15. まとめ</p>	実務家教員 専任：有吉澄江	1
診療情報管理システム実務総論 (医)	<p>診療情報管理士の業務は「もの」と「情報」の管理に分けられる。医療情報システムの普及により、「情報」の管理が重要となってきた。本講では、診療情報管理システム「病歴大将」を使用し、診療録や症例サマリーなどから情報を収集し、診療情報の登録や情報抽出、退院時要約の作成などを行う。</p> <p>1. 診療情報管理の意義と役割 2. 診療情報① 3. 診療情報② 4. 診療情報③ 5. 診療情報管理システム操作方法① 6. 症例登録① 7. 症例登録② 8. 症例登録③ 9. 症例登録④ 10. 症例登録⑤ 11. 症例登録⑥ 12. 症例登録⑦ 13. 症例登録⑧ 14. 症例登録⑨ 15. 症例登録⑩</p>	実務家教員 専任：梅本礼子	1
診療情報管理システム実務演習 (医)	<p>診療情報管理士の業務は「もの」と「情報」の管理に分けられる。医療情報システムの普及により、「情報」の管理が重要となってきた。本講では、診療情報管理システム「病歴大将」を使用し、診療録や症例サマリーなどから情報を収集し、診療情報の登録や情報抽出、退院時要約の作成などを行う。後半は「全国がん登録」に関連した症例登録が行えるよう情報収集する。</p> <p>1. 診療情報管理の意義と役割 2. 診療情報① 3. 診療情報② 4. 診療情報③ 5. 診療情報管理システム操作方法① 6. 症例登録① 7. 症例登録② 8. 症例登録③ 9. 症例登録④ 10. 症例登録⑤ 11. 症例登録⑥ 12. 症例登録⑦ 13. 症例登録⑧ 14. 症例登録⑨ 15. 症例登録⑩</p>	実務家教員 専任：梅本礼子	1
診療報酬・情報特講 I (医)	<p>本講座は、診療報酬請求事務能力認定試験及び医師事務作業補助技能認定試験(ドクターズクラーク)の受験対策を中心とした授業である。医療保険制度や各医療関係諸法、医科点数表の解釈を理解し、学科問題を解く。また、診療の記録から診療報酬明細書や診断書等の医療文書を手書きで作成することにより、医師の負担軽減に寄与するための技能を修得する。</p> <p>1. 診療報酬改定項目① 2. 診療報酬改定項目② 3. 診療報酬・医師事務作業補助学科問題① 4. 診療報酬・医師事務作業補助学科問題② 5. 診療報酬請求事務能力認定試験過去問題① 6. 診療報酬請求事務能力認定試験過去問題② 7. 診療報酬請求事務能力認定試験過去問題③ 8. 診療報酬請求事務能力認定試験過去問題④ 9. 診療報酬請求事務能力認定試験過去問題⑤ 10. 診療報酬請求事務能力認定試験過去問題⑥ 11. 診療報酬請求事務能力認定試験過去問題⑦ 12. 医師事務作業補助認定試験過去問題① 13. 医師事務作業補助認定試験過去問題② 14. 医師事務作業補助認定試験過去問題③ 15. 医師事務作業補助認定試験過去問題④</p>	実務家教員 専任：有吉澄江	1

<p>診療報酬・情報特講Ⅱ (医)</p>	<p>前期に引続き、診療報酬請求事務能力認定試験及び医師事務作業補助技能認定試験(ドクターズクランク)の受験対策を中心とした授業を継続する。医療保険制度や各医療関係諸法、医科点数表の解釈を理解し、学科問題を解く。また、診療の記録から診療報酬明細書や診断書等の医療文書を手書きで作成することにより、医師の負担軽減に寄与するための技能を修得する。</p> <p>1. 医師事務作業補助認定試験過去問題-1 2. 医師事務作業補助認定試験過去問題-2 3. 医師事務作業補助認定試験過去問題-3 4. 医師事務作業補助認定試験過去問題-4 5. 医師事務作業補助認定試験過去問題-5 6. 医師事務作業補助認定試験過去問題-6 7. 学科過去問題 8. 診療報酬請求事務能力認定試験過去問題-1 9. 医師事務作業補助認定試験過去問題-3 10. 医師事務作業補助認定試験過去問題-3 11. 医師事務作業補助認定試験過去問題-4 12. 医師事務作業補助認定試験過去問題-5 13. 医師事務作業補助認定試験過去問題-6 14. 診療報酬請求事務能力認定試験対-1 15. 診療報酬請求事務能力認定試験対策-2</p>	<p>実務家教員 専任：有吉澄江</p>	<p>1</p>
<p>ウェブデザインⅡ (オ)</p>	<p>ウェブクリエイターは、ウェブサイトデザインしたり、ウェブコンテンツをより魅力的なものにすることができる。本講義はウェブデザインⅠの後継科目として、ウェブページの作成に必要な構造言語HTMLとデザイン表現をするCSSの基本知識を学習する。講義をと通して、Webクリエイター(上級)能力認定試験を合格できるように、検定試験の内容や模擬試験も演習しながら講義を進める。</p> <p>1. 基礎の復習 (1) HTMLとCSSの切り分け;2. 基礎の復習 (2) HTMLの基本記述;3. HTML記述 (1) 仕切り、文字装飾;4. HTML記述 (2) イメージとメディア;5. HTML記述 (3) リスト、作表、リンク;6. HTML記述 (4) フォーム、フレーム;7. CSSの記述 (1) CSSのテキスト、フォント、背景;8. CSSの記述 (2) CSSのボックス、配置;9. CSSの記述 (3) CSSのリスト、疑似クラス;10. CSSの記述 (4) IDの扱い;11. 総合演習 (1) HTMLとCSSセットで演習1;12. 総合演習 (2) HTMLとCSSセットで演習2;13. 資格試験対策 (1) Webクリエイター(上級)模擬試験(1);14. 資格試験対策 (2) Webクリエイター(上級)模擬試験(2);15. 資格試験対策 (3) Webクリエイター(上級)模擬試験(3) (期末試験)。</p>	<p>実務家教員 専任：章志華</p>	<p>2</p>
<p>プログラミング基礎演習 (オ)</p>	<p>Webページは基本的にHTMLで記述したものであるが、動的なページ作成するのにプログラムの働きが必要になる。この講義では、HTML、CSSのほか、JavaScript言語を用いた動的なWebページ、関連するプログラミングの基本概念や基礎技法について学ぶ。事例の作成により、情報処理の深い意味を理解し、特に実際にWebページへの応用できる技術を中心に講義を展開する。</p> <p>1. イントロダクション 概要、進め方、システム環境、用意するツール、サンプルデータダウンロード;2. アウトプットの基本 コンソール、アウトプットの基本、HTMLとJavaScript;3. JavaScriptの文法と基本機能 (1) 基本データと様々な演算子;4. JavaScriptの文法と基本機能 (2) 繰り返し演算と配列;5. インプットとデータ加工 (1) フォーム入力と日付;6. インプットとデータ加工 (2) 関数作成、四則演算;7. 基本テクニック (1) カウントダウンタイマー;8. 基本テクニック (2) プルダウンメニュー;9. 基本テクニック (3) アンケート処理;10. 基本テクニック (4) イメージの切り替え;11. 基本テクニック (5) スライドショー;12. jQuery入門 (1) ナビゲーションメニュー;13. jQuery入門 (2) ボックスとアニメーション;14. 外部データ活用 RSSフィードの取得;15. まとめ 期末課題について。</p>	<p>実務家教員 専任：章志華</p>	<p>2</p>
<p>ウェブデザイン演習 (オ)</p>	<p>ウェブサイト構築の総合運用として、本格的にウェブデザイン支援ツールの学習を行う。特にWebサイトを構築する際の企画立案、プレゼンテーション、デザイン制作のプロセスを体験することにより、開発ツールのホームページビルダーの役割を理解する。またサイトの構築だけではなく、構築後の保守管理と更新などに必要な知識も学ぶ。最終に各自が実際の作品を制作し、Webに公開することで一連の流れを学ぶ。</p> <p>1. Webサイト作成の準備 2. ホームページ・ビルダーの基礎知識 3. Webサイトとトップページの作成(1) 4. Webサイトとトップページの作成(2) 5. トップページの編集 6. 表の作成 7. リンクの設定 8. Webサイト内の管理とFTP使用 9. SEO対策 10. スタイルシートの利用 11. ウェブアートデザイナーの基本操作 12. ウェブアニメーターの基本操作 13. 降るCSSテンプレートの活用 14. 作品サイトの制作演習(1) 15. 作品サイトの制作演習(2)</p>	<p>実務家教員 専任：章志華</p>	<p>2</p>

3Dデータ応用 (オ)	<p>近年3Dプリンターは様々な分野で活用されている中、ものづくりへの関心を高め、技術系の人材を育成する為に、関連ソフトと3Dプリンターの導入機運が高まっている。学生の創造力や高度なデジタル技術を身につけるほか、クリエイティブな造形能力と課題解決能力を備えた人材育成にも期待できることから、本科目では、3Dプリンターの使い方、3Dデータ加工などに関わる基礎知識及び技術を身につける。</p> <p>1. 授業ガイダンス 2. 3D造形について(1) 3. 3D造形について(1)・キャラクター制作 4. 3D造形について(2)・キャラクター制作 5. 3D造形について(3)・ディテール付け 6. 3D造形について(4)・色塗りとアニメーション 7. 3D造形について(5)・キャラクター出力 8. FARO固定レーザースキャナー説明(1) 9. FARO固定レーザースキャナー説明(2) 10. スキャンデータ編集・人物 11. 3D造形について(2) 12. 事例ムービー 13. 学習成果プレゼン(1) 14. 学習成果プレゼン(2) 15. まとめ</p>	実務家教員 専任：章志華	2
データベース応用 (オ)	<p>データベースはデータの集まりであるが、論理的な構造を持つ複数のデータファイル間の連携により、格納したデータの管理や操作を行うことができる。この講義は、「データベース」の後継科目として、実例のデータベースを基に、各種の応用に関する知識や基本技法を学習する。これにより、データベースに関する基本概念や基本操作への理解を深める。</p> <p>1. データベース実例 (1) 会員管理データベースの概要と作成;2. テーブルの活用 (1) 作成するテーブルの確認;3. テーブルの活用 (2) フィールドプロパティの設定;4. リレーションシップリレーションシップと参照整合性;5. 参照整合性 参照整合性の確認;6. クエリの活用 (1) 作成するクエリの確認;7. クエリの活用 (2) フィールドプロパティの設定;8. アクションクエリの作成 (1) クエリ作成と確認;9. アクションクエリの作成 (2) クエリの編集;10. データベース実例 (2) 販売管理データベースの概要と作成;11. フォームの活用 (1) フォームの作成と確認;12. フォームの活用 (2) メイン・サブフォームの作成;13. レポートの作成 レポートの作成と確認;14. レポートの活用 集計レポートなど;15. そのた対応機能 そのた対応機能と最終課題説明.</p>	実務家教員 専任：章志華	2
子どもの福祉と子育て支援 (オ)(心)	<p>今や超少子化国といわれる日本。マスコミでも子育て支援や少子化対策を求める声が盛んである。この授業では、現代の子ども及び子育てをする親、さらに地域社会を取り巻く諸問題を検討し、子どもの健康な発達と福祉のありようを考えていきたい。</p> <p>1. 児童福祉の理念 2. 現代の子どもを取り巻く環境 3. 子どもの発達過程 4. 家庭と子ども 5. 地域社会と子ども 6. 子どもの権利 7. 子どもの福祉に関する法制度 8. 子どもの福祉に関する機関・施設と専門職 9. 子どもの福祉に関するサービスの実際 10. 子育て支援サービスの展開 11. 民間サービスの意義と現状 12. 困難を抱えた子どもと家庭への支援 13. 児童虐待の防止とケア 14. 子どもの福祉をめぐる動向と展望 15. 子育て支援の実際</p>	実務家教員 専任：高田晃治	2
カウンセリング (心)	<p>学生生活を送る中で、人間関係や進路、学業などで、さまざまな問題や悩みが生じるのは誰にでもあり得ることである。この授業では、カウンセリングの基本的な考え方や技法を学習することを通じて、上記のような問題が生じたときに仲間同士で支え合い、問題解決を目指すピアヘルピングの技術を習得することを目指す。また、ピアヘルパーとしての役割や倫理、限界などについても学ぶ。</p> <p>1. 導入 2. カウンセリングの定義・略史・種類 3. ピアヘルピングの関係領域 4. ピアヘルピングのプロセス 5. ピアヘルパーのパーソナリティ 6. ピアヘルピングの言語的技法(1) 7. ピアヘルピングの言語的技法(2) 8. ピアヘルピングの非言語的技法 9. 諸問題への対処法 10. ピアヘルパーの心がまえ 11. ヘルピングスキルの上達法 12. ピアヘルパーの倫理 13. ピアヘルパーの活動領域(1):学業・進路 14. ピアヘルパーの活動領域(2):友人・グループ 15. ピアヘルパーの活動領域(3):関係修復・心理</p>	実務家教員 専任：高田晃治	2

<p>カウンセリング演習 (心)</p>	<p>この授業では、基本的なソーシャルスキルやストレスマネジメントの力を高めながら、カウンセリングやピアヘルピングの技法を体験的に学ぶことを目標としている。具体的には、支え合う場をつくる力、自分や他者の内的体験に関心をもつ姿勢、イメージや体験を表現する力、他者の語りを受容的に聴く力、現実的な助言やつなぎをする力等を磨き、実生活に活かしていくことをめざしている。</p> <p>1. 基礎スキル1 自己表現と他者需要 2. 基礎スキル2 ストレスマネジメント 3. 基礎スキル3 気持ちの言語学 4. 基礎スキル4 アサーション 5. 応答スキル1 リレーション・傾聴 6. 応答スキル2 受容・繰り返し 7. 応答スキル3 共感 8. 応答スキル4 質問 9. 応答スキル5 明確化 10. 応答スキル6 要約 11. 応答スキル7 支持・助言 12. 実践スキル1 リフレーミング 13. 実践スキル2 緊急支援 14. 実践スキル3 梨ファー 15. 実践スキル4 エンカウンターグループ</p>	<p>実務家教員 非常勤講師：更科友美</p>	<p>2</p>
<p>心理学実験・査定実習 (心)</p>	<p>心理学はその歴史の中で、人間の心のはたらきを科学的・実証的に解明することを目指して研究が積み重ねられてきた。本授業では心理学に関する基礎的な実験や調査、心理検査を体験的に学び、人の心を実証的に理解する視点を養う。また、心理学研究のレポートの書き方を学ぶことを通じて、事実を簡潔かつ正確に文章化する力、エビデンスに基づいて論理的に考える力を培う。</p> <p>1. オリエンテーション:心理学実験と心理査定 2. 心理学研究法とレポートの書き方 3. 心理学実験① 4. 心理学実験② 5. 心理学実験③ 6. 心理調査法① 7. 心理調査法② 8. 心理調査法③ 9. 心理査定(質問紙法①) 10. 心理査定(質問紙法②) 11. 心理査定(質問紙法③) 12. 心理査定(投映法①) 13. 心理査定(投映法②) 14. 心理査定(投映法③) 15. まとめ</p>	<p>実務家教員 専任:高田晃治</p>	<p>1</p>

人生専門科目 単位数 95

<p>臨床医学各論V (医) (心) 2学科共通</p>	<p>「臨床」とは「病床に臨む」こと、すなわち患者に接して実際に診察、治療を行うことを意味します。本講では、生命の維持に直接かかわる循環器・呼吸器の代表的な疾患について、その特徴、診断、治療など、教科書的な知識のみならず臨床現場に即した知識の習得を目指します。</p> <p>1. 循環器1 2. 循環器2 3. 循環器3 4. 循環器4 5. 循環器5 6. 循環器6 7. 呼吸器1 8. 呼吸器2 9. 呼吸器3 10. 呼吸器4</p>	<p>実務家教員 非常勤講師：原武大介</p>	<p>1</p>
<p>社会福祉I (医) (心) 2学科共通</p>	<p>超高齢化社会到来で重要視される介護を実践するために必要な知識を学び、技術を習得することを目的としている。学習内容は、職務の理解、介護に於ける尊厳の保持、介護の基本、障害の理解、こころとからだのしくみと生活支援技術等についてである。後期での「社会福祉Ⅱ」と「社会福祉Ⅲ」を学び、一定の基準を満たせば、「介護職員初任者研修修了者」として、県に登録される。</p> <p>1. 開講式・オリエンテーション 2. 職務の理解 3. 職務の理解・介護施設見学実習 4. 介護における尊厳の保持・自立支援 5. 介護における尊厳の保持・自立支援 6. 介護における尊厳の保持・自立支援 7. 介護の基本 8. 介護の基本 9. 障害の理解 10. こころとからだの仕組みと生活支援技術 11. こころとからだの仕組みと生活支援技術 12. こころとからだの仕組みと生活支援技術 13. こころとからだの仕組みと生活支援技術 14. こころとからだの仕組みと生活支援技術 15. こころとからだの仕組みと生活支援技術</p>	<p>実務家教員 非常勤講師：池田竜也</p>	<p>3</p>

<p>社会福祉Ⅱ (医) (心) 2学科共通</p>	<p>人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法を理解して、基礎的介護が実施出来るようになることを目的とする。 利用者の尊厳を保持し、自立及び自律を尊重した介護を基礎とする事は勿論、持てる力を発揮しながら、在宅・地域等での生活を支える介護技術と知識を習得する。また、生活支援技術の身体介護と終末ケアを演習をまじえながら学ぶ。</p> <p>1. 整容の介護 2. 整容の介護 3. 移動・移乗の介護 4. 移動・移乗の介護 5. 食事の介護 6. 食事の介護 7. 入浴・清潔保持の介護 8. 入浴・清潔保持の介護 9. 排泄の介護 10. 排泄の介護 11. 睡眠の介護 12. 睡眠の介護 13. 睡眠の介護 14. 死にゆく人への介護 15. 死にゆく人への介護</p>	<p>実務家教員 非常勤講師：池田竜也</p>	<p>2</p>
<p>社会福祉Ⅲ (医) (心) 2学科共通</p>	<p>「介護職員初任者研修」修了者として県に登録されることを目的とした学習の最後の講座で、一定の基準を満たすことが求められる。介護に関する、知識・技術を十分身につけて職業人としての自覚ができるようにする。 内容は、介護過程、総合生活支援技術、介護・福祉サービス、コミュニケーション、老化、認知症および介護実習等である。</p> <p>1. 介護過程の基礎知識 ①基礎的理解 2. 介護過程の基礎知識 ②展開 3. 総合生活支援技術演習① 4. 総合生活支援技術演習② 5. 介護福祉サービスの理解と医療との連携① 6. 介護福祉サービスの理解と医療との連携② 7. 介護福祉サービスの理解と医療との連携③ 8. 介護に於けるコミュニケーション技術① 9. 介護に於けるコミュニケーション技術② 10. 老化の理解① 11. 老化の理解② 12. 認知症の理解① 13. 認知症の理解② 14. 振り返り 15. 修了試験</p>	<p>実務家教員 非常勤講師： 池田竜也</p>	<p>3</p>
<p>生活介護論 (医) (才) (心) 2学科共通</p>	<p>現代社会は少子高齢化が進み65歳以上の割合は1/4を超え、多数の問題を抱えています。その中でも医療・介護サービスを必要とする高齢者の増加や、入院期間の短縮に伴う在宅介護の必要性、介護する家族の負担がクローズアップされています。小児から高齢者まで各年代別の健康問題・生活課題と疾患や機能障害について理解し、家庭での介護に適応できるよう学びます。</p> <p>1. OR・健康と病気 2. ライフステージと健康管理① 3. ライフステージと健康管理② 4. ライフステージと健康管理③ 5. ライフステージと健康管理④ 6. ライフステージと健康管理⑤ 7. 高齢化の現状と特徴① 8. 高齢化の現状と特徴② 9. 高齢者の生活課題① 10. 高齢者の生活課題② 11. 高齢者の生活課題③ 12. 高齢者の介護① 13. 高齢者の介護② 14. 高齢者の介護③ 15. 高齢者の生活支援と福祉</p>	<p>実務家教員 非常勤講師：井上富美江</p>	<p>2</p>
<p>発達心理学Ⅱ (医) (心) 2学科共通</p>	<p>人間はこの世に生を受け、死に至るまでの生涯にわたって成長し続ける。発達心理学とは、人間の一生に及ぶ発達の過程をさまざまな側面から捉え、検証する学問である。本講義では特に青年期から老年期までの発達と、発達臨床と支援を中心に学修する。</p> <p>1. オリエンテーション:生涯発達心理学とは？ 2. 社会・文化の中での発達 3. ライフサイクル 4. 青年期とアイデンティティ 5. 成人前期の発達(1) 6. 成人前期の発達(2) 7. 中年期の発達 8. 高齢期の発達(1):発達課題と特徴 9. 高齢期の発達(2):身体、認知、記憶 10. 高齢期の発達(3):情動、動機づけ 11. 高齢期の精神障害 12. 高齢者への介護について 13. 発達障害時の理解と支援 14. 児童虐待 15. まとめ</p>	<p>実務家教員 専任:高田晃治</p>	<p>2</p>

履修メインの学科に2学科共通科目を入れている。

2学科共通科目 単位数 13

食物栄養学科 実務家教員担当科目 授業概要(専門科目)
2019年度開講科目

2019年5月現在

授業科目の名称	講義等の内容	備考	単位数
食品開発実習 (管)	<p>加工食品を開発して市場に流通させるためには、農産・畜産・水産などの主原料、副原料、さらに食品添加物などの幅広い知識が必要です。加えて、開発されたものが消費者の嗜好性に沿ったものであることや食品としての安全性・貯蔵性も求められます。食品産業で実際に生産されている加工食品を実際に製造しながら、食品加工の実用的な知識や技術を深めることを目指します。</p> <p>1. オリエンテーション 2. 製品の品質評価法(講義) 3. 果物の加工(講義) 4. 加工実習(果物) 5. 豆類の加工(講義) 6. 加工実習(豆類) 7. 野菜の加工(講義) 8. 野菜の加温処理と食感 9. 魚肉の加工(講義) 10. 加工実習(魚の鮮度、かまぼこ) 11. ハムの製造(講義) 12. 加工実習(ハムの製造) 13. デンプンの特性(講義) 14. 加工実習(デンプン) 15. 学習内容の復習</p>	実務家教員 専任:岡崎尚	1
食品衛生学 (管)	<p>食品を起因とした衛生上及び健康上の危害を未然に防ぐことは、食品に係わる仕事に就く人たちにとって重要な責務である。まず食品衛生行政、関係法規を理解し、引き続き様々な食中毒、自然毒、化学毒、食品添加物などの基礎知識を学習する。また、食品の表示やHACCPによる衛生管理についても解説を行う。</p> <p>1. 食品衛生と法規 2. 食品と微生物 3. 食品の変質(1) 4. 食品の変質(2) 5. 食中毒の分類と発生状況 6. 微生物による食中毒(1) 7. 微生物による食中毒(2) 8. ウイルスによる食中毒 9. 自然毒による食中毒 10. 食品を介する寄生虫症 11. 有害物質による食品汚染と健康障害 12. 食品添加物 概要 13. 食品添加物各論 14. 食品の安全性と消費者の求める安心 15. HACCP計画の実際</p>	実務家教員 専任:岡崎尚	2
食品微生物学 (管)	<p>私たちの食生活の中に深くかかわっている微生物について学ぶことは、食品の加工だけではなく食品の腐敗や食品衛生の面からも重要なことである。具体的には、微生物の種類と特徴、微生物の生育、微生物の殺菌、発酵食品、食品の腐敗などについて、基礎から応用までを学び、食品及び食品衛生と微生物の関係を理解する。</p> <p>1. 微生物学の歴史と微生物の利用 2. 微生物の分類:カビ 3. 微生物の分類:キノコ 4. 微生物の分類:酵母 5. 微生物の分類:細菌(1) 6. 微生物の分類:細菌(2) 7. 微生物の観察 8. 微生物の栄養 9. 微生物の増殖 10. 微生物の利用(1) 11. 微生物の利用(2) 12. 微生物の利用(3) 13. 微生物の利用(4) 14. 安全な調理・加工 15. 発酵食品を作る</p>	実務家教員 専任:岡崎尚	2
栄養学総論 (管)	<p>私たちは食物を摂取することによって、生命活動を維持している。この科目では、栄養の概念およびその意義についての基本的な知識を身につけ、また、各栄養素の機能や、摂取した食物の消化、吸収、代謝について学ぶ。</p> <p>1. 栄養の概念 2. 炭水化物の栄養① 3. 炭水化物の栄養② 4. 脂質の栄養① 5. 脂質の栄養② 6. たんぱく質の栄養① 7. たんぱく質の栄養② 8. ビタミンの栄養① 9. ビタミンの栄養② 10. ミネラルの栄養① 11. ミネラルの栄養② 12. 水の機能 13. 食物の摂取 14. エネルギー代謝 15. 栄養学のあゆみ</p>	実務家教員 専任:津村なみえ	2

<p>応用栄養学 (管)</p>	<p>人生における各ライフステージにおけるの各世代の特性を知り、生理的变化に対応できる栄養管理(栄養・食生活)を知る。そして健康で豊かな生活を送るための栄養ケアのあり方、および疾病・疾病予防・生活習慣病等の問題点を考慮し、健康で健やかな一生を送るための栄養ケアマネジメントの具体的な手法を学ぶ。また運動時の人体の生理的变化と栄養等を病院での経験を生かして授業を行っていく。</p> <p>1. 日本人の食事摂取基準 2. ライフステージ別食事摂取基準 3. 妊娠期の栄養 4. 妊娠期の栄養 授乳期の栄養 5. 新生児期・乳児期の栄養 6. 乳児期の栄養 7. 乳児期の栄養 8. 乳児期の栄養 9. 学童期の栄養 10. 思春期の栄養 11. 成人期・更年期の栄養 12. 高齢期の栄養 13. 高齢期の栄養 14. 運動・スポーツと栄養 15. 環境と栄養</p>	<p>実務家教員 専任:平林真弓</p>	<p>2</p>
<p>応用栄養学実習 (管)</p>	<p>応用栄養学で学習した知識を基礎に、各ライフステージ別にふさわしい栄養の取り方、調理の方法を実習し、栄養士業務の基礎を学習する。グループを編成してテーマに沿った献立の作成・実習を行い、そのつど内容の評価を発表形式で行う。乳児期から老年期まで各栄養素の特質・個人差・環境など人間全体としての望ましい食事作りについて理解し、技能を身につける。病院での経験を基に行っている。</p> <p>1. 第1回オリエンテーション 2. 第2回母性栄養 3. 第3回乳児栄養 4. 第4回幼児栄養 5. 第5回授乳期栄養 6. 第6回授乳期栄養 7. 第7回学童期栄養 学校給食 8. 第8回学校給食の実習 9. 第9回思春期・成人期栄養 10. 第10回成人期栄養の実習 11. 第11回高齢期栄養 12. 第12回高齢期栄養の実習 13. 第13回高齢期栄養 介護食 14. 第14回咀嚼・嚥下困難食 実習 15. 第15回まとめ</p>	<p>実務家教員 専任:平林真弓、水本沙織</p>	<p>1</p>
<p>栄養指導総論 (管)</p>	<p>わが国では過剰栄養による肥満、生活習慣病、低栄養等の問題がある。これらを解決するために、適切な栄養状態と食行動の実現に向けて行動科学の理論・モデルを応用し、悪しき行動を望ましい行動に変容し、習慣化できるまでを支援する栄養教育が理解できるようになるために、行動科学、栄養教育のマネジメント・アセスメント、方法などについて学習する。</p> <p>1. 栄養教育の概念(1) 2. 栄養教育のための理論的基礎(1) 3. 栄養教育のための理論的基礎(2) 4. 栄養教育のための理論的基礎(3) 5. 栄養教育のための理論的基礎(4) 6. 栄養教育のための理論的基礎(5) 7. 栄養教育のための理論的基礎(6) 8. 栄養教育のための理論的基礎(7) 9. 栄養ケア・マネジメント(1) 10. 栄養ケア・マネジメント(2) 11. 栄養ケア・マネジメント(3) 12. 栄養ケア・マネジメント(4) 13. 栄養ケア・マネジメント(5) 14. 栄養ケア・マネジメント(6) 15. 栄養ケア・マネジメント(7)</p>	<p>実務家教員 専任:中東教江</p>	<p>2</p>
<p>栄養指導各論 (管)</p>	<p>妊娠・授乳期から高齢者までの各ライフステージ・ライフスタイル別の栄養教育の展開、並びに障害者と傷病者を対象とした栄養教育が理解できるようになるため、各ライフステージ、ライフスタイル、健康状態などの特徴について学ぶ。</p> <p>1. 妊娠・授乳期の栄養教育 2. 乳幼児期の栄養教育① 3. 乳幼児期の栄養教育② 4. 学童期・思春期の栄養教育 5. 成人期の栄養教育① 6. 成人期の栄養教育② 7. 高齢期の栄養教育① 8. 高齢期の栄養教育② 9. スポーツ実施時の栄養教育 10. 地域社会における栄養教育 11. 臨床栄養教育とは 12. 循環器疾患における栄養教育① 13. 循環器疾患における栄養教育② 14. 栄養代謝疾患における栄養教育 15. 障がい者(児)の栄養教育</p>	<p>実務家教員 専任:中東教江</p>	<p>2</p>
<p>栄養指導実習 I (管)</p>	<p>栄養士の業務は、人々の健康を守り、はぐくむための適切な食生活のあり方を指導するために必要とされる基本的知識を身につける必要がある。栄養指導の基礎的学習が理解できるようになるために、必要な理論と技術について学ぶ。</p> <p>1. 栄養教育論演習の概要 食品成分表の使い方 2. 食品群別荷重平均成分値の求め方 3. 食品構成 4. 食品交換表(1) 5. 食品交換表(2) 6. 食事摂取基準(1) 7. 献立作成(1) 8. 献立作成(2) 9. 栄養診断(1) 10. 栄養診断(2) 11. 実態把握の方法 12. 情報の収集(1) 13. 情報の収集(2) 14. 情報処理と栄養統計(1) 15. 情報処理と栄養統計(2)</p>	<p>実務家教員 専任:中東教江</p>	<p>1</p>

調理学 (管)	<p>食材を調理して食物とするには、食品の種類、食品成分や機能、科学的・物理的性質や調理特性を知り、調理による成分変化を科学的に理解することが必要です。調理の意義・目的を学んだ後、植物性食品(米・小麦・芋・豆・種実・きのこ・野菜・果実・藻類)、動物性食品(肉・魚・卵・乳・乳製品)、成分抽出素材、調味料の調理性、加熱調理操作、非加熱調理操作の原理・要点を学びます。</p> <p>1. 調理の概要 2. おいしさとは1 3. おいしさとは2 4. 食事設計の基礎 5. 植物性食品の調理性1 6. 植物性食品の調理性2 7. 植物性食品の調理性3 8. 植物性食品の調理性4 9. 動物性食品の調理性1 10. 動物性食品の調理性2 11. 動物性食品の調理性3 12. 油脂・成分抽出素材の調理性 13. 調味料・香辛料の調理性 14. 調理操作と調理機器1 15. 調理操作と調理機器2</p>	実務家教員 専任:藤原久子	2
給食経営管理論 (管)	<p>給食の概要、定義、目標を学び、医療施設・高齢者福祉施設・児童福祉施設・学校・事業所等の特定多数人を対象とした特定給食施設において、継続した食事を提供する特別な配慮を必要とする給食経営管理を学ぶ。利用者の身体、栄養状態に応じた給食を提供するため、栄養管理・衛生管理・設備管理・食材管理・価格管理等を取得する。病院での経験を基に行っている。</p> <p>1. 第1章 2. 第2章 3. 第2章 4. 第2章 5. 第2章 6. 第3章 7. 第4章 8. 第4章 9. 第5章 10. 第6章 11. 第6章 12. 第7章 13. 第8章 14. 第9・10章 15. まとめ</p>	実務家教員 専任:平林眞弓	2
調理学実習 I (管)	<p>調理学に基づいて、調理操作の方法や特徴、調理器具の取り扱いなど基礎的な調理技術を習得することを目的とし、基本的な調理操作(計量・切る・ゆでる・煮る・蒸す・焼く・揚げる・炒める等)の方法や調理法、調味割合を学びます。 また、リスクマネジメントとして実習室使用にあたり、身だしなみ、手洗いを習慣づけ、基本的な衛生管理能力を身につけます。</p> <p>1. オリエンテーション1 2. オリエンテーション2 3. 基本調理操作1 4. 基本調理操作2 お菓子1 5. 調理操作1 6. 調理操作2 7. 調理操作3 8. 調理操作4 9. 調理操作5 10. 調理操作6 11. 調理操作7 12. 調理操作8 13. 調理操作9 14. お菓子2 15. 衛生管理 小テスト</p>	実務家教員 専任:藤原久子	1
調理学実習 II (管)	<p>調理学実習 I で学んだ基礎的な調理操作や衛生管理の知識を踏まえ、より実践的な調理技術を習得することを目的としています。 和食、洋風、中華料理、行事食の実習を行い、各様式の献立構成、調理技法、食器・器具類の扱い方、盛り付け、配膳形式等について理解を深めていきます。</p> <p>1. 洋風料理1 2. 洋風料理2 3. 洋風料理3 4. 和食1 5. 和食2 6. 中華1 7. 献立作成1 8. 献立作成2 9. 献立作成3 10. 中華2 11. 行事食1 12. 行事食2 13. 行事食3 14. 和食3 15. 衛生管理 小テスト</p>	実務家教員 専任:藤原久子	1
給食管理実習 I (管)	<p>給食計画論で習得した知識を基に給食サービス提供に関する技術を体得する。本学附属の幼稚園児を対象として150食規模の給食提供を行う。給食提供の計画・実施・反省・評価まですべて学生自身で運営し、栄養士として必要な栄養・食事管理、調理作業管理、安全衛生管理、情報処理管理等の能力を養うことを目的とする。さらに園児と一緒に食事をする中で、食に関する実践的な指導を病院での経験を基に行っている。</p> <p>1. オリエンテーション 2. 計画 3. 計画 4. 試作 5. ポスター・給食だより作成 6. ポスター・給食だより作成 7. 実施1 8. 実施2 9. 実施3 10. 実施4 11. 実施5 12. 実施6 13. 実施7 14. 実施8 15. まとめ</p>	実務家教員 専任:平林眞弓、水本沙織	1
給食実務実習 (管)	<p>給食計画論で習得した知識を基に給食サービス提供に関する技術を体得する。本学附属の幼稚園児を対象として150食規模の給食提供を行う。給食提供の計画・実施・反省・評価まですべて学生自身で運営し、栄養士として必要な栄養・食事管理、調理作業管理、安全衛生管理、情報処理管理等の能力を養うことを目的とする。さら食事の指導、助言を行い、食に関する実践的な指導を病院での経験を基に行っている。</p> <p>1. オリエンテーション 2. 計画 3. 計画 4. 試作 5. ポスター・給食だより作成 6. ポスター・給食だより作成 7. 実施(1回) 8. 実施(2回) 9. 実施(3回) 10. 実施(4回) 11. 実施(5回) 12. 実施(6回) 13. 実施(7回) 14. 実施(8回) 15. まとめ、反省</p>	実務家教員 専任:平林眞弓、水本沙織	1

<p>海外食生活事情 (管)(調)</p>	<p>食生活は、風土と文化により育まれる。その国の食習慣や風俗の見聞を広げることができると、食文化の奥深さを理解できるようになるために、本場の調理師の指導による調理体験や歴史的建造物等の見学を行う。毎年2月中旬～3月初旬、3泊4日を予定している。行き先は11月ごろ発表される。</p> <p>1. オリエンテーション 2. 研修先の調査 3. 研修先の決定 4. 募集活動 11月中旬 5. 現地での調理体験の場所 調査と交渉 6. ホテル・レストラン等のメニュー検討 7. 旅費の検討 8. 市場・バザールなど視察したい施設の検討 9. パスポート・保険などの手続き 10. 添乗員による現地説明 11. 研修旅行のパンフレット作成 12. 研修旅行1日目(出発) 13. 研修旅行2日目 14. 研修旅行3日目 15. 研修旅行4日目(帰国)</p>	<p>実務家教員 専任:下地隆、日高恵実</p>	<p>2</p>
<p>フードスペシャリスト論 (管)</p>	<p>フードスペシャリストの仕事には、食品の開発調査、官能評価・鑑別、顧客に対する情報提供・販売促進、快適な食事のコーディネート、さらに食育活動を担うなどがある。そのための知識と技術を得なければならない。本講座ではフードスペシャリストの意義とその概要、さらにその活用を知るために総論的に学び、食の商品企画、流通、販売や消費の現場において活躍できる専門家をめざす。</p> <p>1. フードスペシャリストとは 2. 人類と食物 3. 世界の食 4. 日本の食① 5. 日本の食② 6. 現代日本の食生活① 7. 現代日本の食生活② 8. 食品産業の役割① 9. 食品産業の役割② 10. 食品産業の役割③ 11. 食品の品質規格と表示① 12. 食品の品質規格と表示② 13. 食品の品質規格と表示③ 14. 食情報と消費者保護① 15. 食情報と消費者保護②</p>	<p>実務家教員 専任:岡崎尚</p>	<p>2</p>
<p>おいしさの科学 (管)</p>	<p>食品の「おいしさ」について科学的な視点から知識を得ておくことは、調理や加工をする場合に大いに役立つ。おいしさについて、5味などの基本味に、こくと香りが加わって風味が形成され、硬さや滑らかさなどの食感や温度、色、形状などによって食味が形成される。さらに外部環境や食習慣、食文化が加わり、おいしさが形成される。これらの基本的なことに加えて、様々な食品のおいしさについて学ぶ。</p> <p>1. おいしさの要因(1) 2. うま味、甘味 3. 酸味 塩味 4. 苦味 辛味 5. 油脂、コク 6. 発酵と熟成 7. 香り、テクスチャー 8. 温度、色、音、水</p>	<p>実務家教員 専任:岡崎尚</p>	<p>1</p>
<p>食品表示概論 (管)</p>	<p>食品を消費する側と供給する側との信頼形成のためには、両者間の必要情報の共有化が重要であり、その役目を果たしているのが食品の表示である。表示目的とその活用を消費者の立場と提供する立場の両面から理解し、表示の意味を学ぶ。個々の食品の表示例を教材にして、実際の食品の表示について学び、理解を深める。</p> <p>1. 食品表示について 2. 生鮮食品の表示 3. 加工食品の表示(1) 4. 加工食品の表示(2) 5. 加工食品の表示(3) 6. 機能性表示 7. 栄養表示 8. 表示関連法規など</p>	<p>実務家教員 専任:岡崎尚</p>	<p>1</p>
<p>栄養学総論 (調)</p>	<p>栄養とは食物をとおして、人の健康状態を高めるものである。健康的な食生活を送るために、正しい栄養学の知識を身につけるとともに、私たちの食生活の現状と健康づくりについて学ぶ。また、各栄養素の機能や、食物摂取のしくみと体内にとり入れられた食物の消化、吸収、代謝について学ぶ。</p> <p>1. 栄養素の機能と健康① 2. エネルギー代謝と食事摂取基準① 3. 栄養素の機能と健康② 4. 栄養素の機能と健康③ 5. 栄養素の機能と健康④ 6. 栄養素の機能と健康⑤ 7. 栄養素の機能と健康⑥ 8. 栄養素の機能と健康⑦ 9. 栄養素の機能と健康⑧ 10. 栄養素の機能と健康⑨ 11. 栄養素の機能と健康⑩ 12. 消化と吸収① 13. 消化と吸収② 14. エネルギー代謝と食事摂取基準② 15. エネルギー代謝と食事摂取基準③</p>	<p>実務家教員 専任:津村なみえ</p>	<p>2</p>
<p>食品微生物学 (調)</p>	<p>私たちの食生活の中に深くかかわっている微生物について学ぶことは、食品の加工だけではなく食品の腐敗や食品衛生の面からも重要なことである。具体的には、微生物の種類と特徴、微生物の生育、微生物の殺菌、発酵食品、食品の腐敗などについて、基礎から応用までを学び、食品及び食品衛生と微生物の関係を理解する。</p> <p>1. 微生物学の歴史と微生物の利用 2. 微生物の分類:カビ 3. 微生物の分類:キノコ 4. 微生物の分類:酵母 5. 微生物の分類:細菌(1) 6. 微生物の分類:細菌(2) 7. 微生物の観察 8. 微生物の栄養 9. 微生物の増殖 10. 微生物の利用(1) 11. 微生物の利用(2) 12. 微生物の利用(3) 13. 微生物の利用(4) 14. 安全な調理・加工 15. 発酵食品を作る</p>	<p>実務家教員 専任:岡崎尚</p>	<p>2</p>

調理概論 (調)	<p>食材を調理して食物とするには、食品の種類、食品成分や機能、調理特性を理解することが大切です。</p> <p>調理の概要、おいしさを構成する要素を学んだ後、植物性食品(米・小麦粉・芋・豆・種実・きのこ・野菜・果実・藻類)、動物性食品(肉・魚・卵・牛乳・乳製品)、成分抽出素材、調味料についての特徴・調理性、各種調理器具・食器等の特徴等について学んでいきます。</p> <p>1. 調理の概要 2. おいしさの構成1 3. おいしさの構成2 4. おいしさの構成3 5. おいしさの構成4 6. 植物性食品の調理1 7. 植物性食品の調理2 8. 植物性食品の調理3 9. 動物性食品の調理1 10. 動物性食品の調理2 11. その他食品の調理1 12. その他食品の調理2 13. 調理設備・器具と熱源1 14. 調理設備・器具と熱源2 15. 調理設備・器具と熱源3</p>	実務家教員 専任:藤原久子、水本沙織	2
調理の種類と操作 (調)	<p>調理操作の特徴を学び、料理に合った器具を選択する能力を養い、食品成分の性質や調理過程での科学変化について演習を通して理解することを目的としています。</p> <p>1. オリエンテーション 2. 非加熱調理操作1 3. 非加熱調理操作2 4. 加熱操作 湿式加熱操作1 5. 加熱操作 湿式加熱操作2 6. 加熱操作 湿式加熱操作3 7. 加熱操作 湿式加熱操作4 8. 加熱操作 湿式加熱操作5 9. 加熱操作 湿式加熱操作6 10. 加熱操作 乾式加熱操作1 11. 加熱操作 乾式加熱操作2 12. 加熱操作 乾式加熱操作3 13. 加熱操作 乾式加熱操作4 14. 加熱操作 乾式加熱操作5 15. 加熱操作 乾式加熱操作6</p>	実務家教員 専任:藤原久子、水本沙織	2
調理学実習 I (調)	<p>西洋料理の基本的な心構えと技術を習得し、自然の食材を大切に扱い作る楽しさを学ぶ。</p> <p>1. 調理師としての心構え 2. 調理の基本 3. 調理技術の習得 4. 調理技術の習得 5. 調理技術の習得 6. 調理技術の習得 7. 調理技術の習得 8. 調理技術の習得 9. 調理技術の習得 10. 模擬テスト 11. 調理技術の習得 12. 調理技術の習得 13. 調理技術の習得 14. 調理技術の習得 15. 調理技術の習得</p>	実務家教員 専任:森川陽子 非常勤講師:松木稔, 中村春男	1
調理学実習 II (調)	<p>日本料理は、造里、汁物、焼き物、煮物、蒸し物、酢物、鍋物、ご飯等に分類される。材料に合った調理法を選び、器に気を配り、素材を生かした調理を基本に進め、美味しい料理に必要なだしや野菜や魚の味を生かすための方法や下処理そして包丁の扱い方など、日本料理の基本を身につける。</p> <p>1. 調理師としての心構え 2. 鰹だしの取り方、御飯の炊き方 3. 野菜の切り方 4. 魚の卸し方(1) 5. 魚の卸し方(2) 6. 鯛づくし 7. 鱸の持ち味料理 8. 新緑の恵 9. 初夏の川魚 10. 茄子丸ごと 11. 模擬試験 12. 夏野菜料理 13. 蛸料理 14. 暑い時に 15. スタミナ料理</p>	実務家教員 専任:水本沙織 非常勤講師:下川健次	1
調理学実習 III (調)	<p>中国料理の特徴を理解できるようになるため、中国の歴史、四大系統、代表料理、基礎となる調理法について学ぶ。また、現代の日本における中国料理と和食とのつながりを理解するため、食生活への影響等について学ぶ。</p> <p>1. 中国料理の系統別特色と代表料理について 2. 中国料理の代表的調理法 3. 調理法と健康について 4. 食材の有効利用 5. 炒め物(基礎) 6. 揚げ物(基礎) 7. 煮物(基礎) 8. 蒸し物(基礎) 9. 点心(基礎) 10. 精進料理(基礎) 11. パーティー料理 I 12. パーティー料理 II 13. パーティー料理 III 14. 日本で生まれた中国料理 15. まとめ</p>	実務家教員 専任:下地隆, 日高恵美	1

調理学実習Ⅳ (調)	<p>西洋料理の専門的な技術の習得を重ねる。 料理作りの楽しさを知る。</p> <p>1. 調理基本と技術の習得 2. 調理基本と技術の習得 3. 調理基本と技術の習得 4. 調理基本と技術の習得 5. 調理基本と技術の習得 6. 調理基本と技術の習得 7. 調理基本と技術の習得 8. 調理基本と技術の習得 9. 調理基本と技術の習得 10. 調理基本と技術の習得 11. 調理基本と技術の習得 12. 調理基本と技術の習得 13. まとめ 14. 調理基本と技術の習得 15. 調理基本と技術の習得</p>	<p>実務家教員 専任:森川陽子</p> <p>非常勤講師:松木稔, 中村春男</p>	1
調理学実習Ⅶ (調)	<p>わが国には、季節と旬を大切にした伝統行事である五節句、人生の節目を祝う記念日、外国からの記念日、宗教行事など多くの行事食がある。本授業では料理技術の向上にとどまらず、それぞれのテーマやコンセプトに合わせた料理、盛り付け、器、カトラリーなど総合的に学習し、「食」を総合的にコーディネートし、食生活をより豊かなものにする。</p> <p>1. ティービュッフェ 2. 秋の和のテーブル 3. アフタヌーンティー 4.お正月料理 5.クリスマス 6.バレンタイン 7.桃の節句 8.春の和のテーブル 9.端午の節句 10.母の日 11.中華でおもてなし 12.慶弔と仏事 13.七夕 14.パーティー企画 15.終了パーティー</p>	<p>実務家教員 専任:日高恵美</p> <p>非常勤講師: 鉄穴森陽子</p>	1
テーブルコーディネート・マナー (調)	<p>テーブルコーディネートの基礎知識、五感にうたえる食空間の演出を学習します。 行事食実習のテーマを知り、食文化、マナーについても学習し、パーティプランニングができる知識を深めます。季節をとり入れ、美味しいものをより美味しく演出する「おもてなし」の心をもったフードコーディネーターの能力育成を目的とします。</p> <p>1. ハロウィンのティーパーティー 2. 秋の和のテーブル 3. アフタヌーンティー 4. お正月(お節料理) 5. クリスマスパティー 6. バレンタインデー 7. 桃の節句 8. イースター 春のおもてなし 9. 端午の節句 10. 母の日 11. 中華料理 12. 精進料理 13. 七夕 14. パーティー企画 15. 修了パーティー</p>	<p>実務家教員 専任:日高恵美</p> <p>非常勤講師:岡本恵子</p>	1
社会福祉 (管)	<p>自らが主体的な生活を営んでいくために、社会福祉を学び「福祉」の心を通じて「相手の相手らしさ」を受容し、自らが創意工夫した生活を楽しむ観点をもち専門職の在り方を探る。</p> <p>1. 社会福祉とは何か 2. 自らの生活文化と価値観について 3. 生活空間演習1 4. 生活空間演習1 5. 生活空間演習2 6. 生活空間演習2 7. 生活空間演習3 8. 生活空間演習3 9. 生活空間演習4 10. 生活空間演習4 11. 福祉の制度とサービス 12. 地域福祉のあり方1 13. 地域福祉のあり方2 14. 自らの生活における社会福祉1 15. 自らの生活における社会福祉2</p>	<p>実務家教員 非常勤講師:池田竜也</p>	2
臨床医学概論 (管)	<p>病気の原因や症状の起こるメカニズムの基礎を学び、臨床栄養学を学ぶために必要な医学の基礎知識を習得する。特に人体の構造と機能、症候学、主要疾患とその概念を理解するよう講義を進める。</p> <p>1. 臨床医学概論 人体の構造と機能 2. 人体の構造と機能 3. 人体の構造と機能 4. 人体の構造と機能 5. 人体の構造と機能 6. 人体の構造と機能 7. 人体の構造と機能 8. 臨床医学総論 症状と徴候 9. 症状と徴候 10. 症状と徴候 11. 症状と徴候 12. 症状と徴候 13. 症状と徴候 14. 症状と徴候 15. 生活習慣病</p>	<p>実務家教員 非常勤講師:橋本成史</p>	2
食品衛生学実験 (管)(調)(開)	<p>食品衛生学の講義によって得られた知識を実際の実験を通して確認し、調理や加工に場で活用する。前半は、食品衛生に関する器具・微生物の扱い、無菌的操作、微生物の測定など実験を通して学ぶ。また、食品中の微生物を増やさない方法として、薬剤殺菌や加熱殺菌の効果を確かめる。後半は、食品添加物の測定方法について学ぶ。</p> <p>1. オリエンテーション 2. 空中落下菌の検査 3. 手指の衛生検査 4. 食品の微生物数の測定 5. 大腸菌群の検査 6. 液体培養による大腸菌の検査 7. 食品の菌数増殖と腐敗 8. 塩素イオンの測定 9. 酸性食品と低酸性食品に発育する微生物 10. 脂質の酸価の測定及び過酸化物の検出 11. 食器の汚れ判定 12. 食品添加物の検査(1) 発色剤の検査 13. 食品添加物の検査(2) 保存料の検査 14. 食品添加物の検査(3) 着色料の検査 15. まとめ</p>	<p>実務家教員 専任:岡崎尚</p>	1

臨床栄養学 (管)	<p>栄養士は、生活習慣病などの傷病者に栄養指導や治療食の提供をすることを責務とする。各疾患の予防や治療のために栄養管理は重要である。症状や病態、治療法に対応した栄養管理は、病気の治療だけではなく、病気の進行や合併症、再発防止に繋がる。食事・栄養療法が理解できるようになるために、各疾患の発生機序・病態生理・臨床症状について学ぶ。</p> <p>1. 臨床栄養学とは 栄養評価・臨床検査 2. 消化器疾患の病態と栄養管理① 3. 消化器疾患の病態と栄養管理② 4. 代謝性疾患の病態と栄養管理① 5. 代謝性疾患の病態と栄養管理② 6. 循環器疾患の病態と栄養管理① 7. 循環器疾患の病態と栄養管理② 8. 腎疾患の病態と栄養管理 9. 血液疾患の病態と栄養管理 10. 呼吸器疾患の病態と栄養管理 11. 内分泌性疾患・骨疾患の病態と栄養管理 12. 免疫・アレルギーの病態と栄養管理 13. 術前・術後の栄養管理 14. 乳幼児および小児期の疾患の病態と栄養管理 15. 栄養法</p>	実務家教員 専任:中東教江	2
臨床栄養学実習 I (管)	<p>医療機関における栄養士の業務は、治療食の製作をすることが実務であると考えられる。臨床栄養学実習は、病態生理や栄養代謝などの学問を基礎として、治療食の食事計画を立て、調理をする実習である。傷病者の食事が理解できるようになるために、各疾病の食事について学ぶ。</p> <p>1. 病院食について 2. 献立作成 3. エネルギーコントロール食① 4. エネルギーコントロール食の調理① 5. エネルギーコントロール食② 6. エネルギーコントロール食の調理② 7. たんぱく質コントロール食 8. たんぱく質コントロールの調理 9. 脂質コントロール食 10. 脂質コントロール食の調理 11. 胃腸疾患食 12. 胃腸疾患食の調理 13. 嚥下食 14. 嚥下食の調理 15. 献立の展開</p>	実務家教員 専任:中東教江, 森川陽子	1
臨床栄養学実習 II (管)	<p>病院における治療の一環としての給食を把握するとともに、栄養指導の実際について修得することを目的とする。 その内容は、病院給食の概要及び患者に対する栄養管理や食事管理ができるようになるために、病院にて実習を行い学ぶ。</p> <p>1. 献立作成 2. 食数把握 3. 食材調達 4. 調理 5. 配膳 6. 衛生管理 7. 諸帳簿事務処理 8. 媒体作成 9. 課題作成 10. 個別栄養管理 11. カンファレンス 12. 栄養食事指導 13. 栄養指導記録 14. 調査 15. 実習まとめ</p>	実務家教員 専任:中東教江、水本沙織	1
公衆栄養学概論 (管)	<p>地域で暮らす人びとのQOLの向上を図ることを目的に、人びとのより良い健康づくりを栄養面から支援するために理論や実践を学ぶ。食・栄養・健康問題が多様化、複雑化している現在の情勢を理解できるようになるために、情報を把握・分析・課題解決のためのプログラムの作成・実施・評価の総合的なマネジメントに必要な理論と方法について学ぶ。</p> <p>1. 公衆栄養の概念と公衆栄養活動 2. 健康・栄養問題の現状と課題 3. 公衆栄養活動と栄養関連法規 4. 栄養士制度と国民健康・栄養調査 5. 栄養に関する指針、ツール 6. 健康増進基本方針と地方計画 7. 栄養疫学 8. 公衆栄養マネジメント 9. 公衆栄養アセスメント 10. 食事摂取基準 11. 公衆栄養プログラムの計画、実施、評価 12. 公衆栄養プログラムの展開 13. 地域集団の特性別プログラムの展開(1) 14. 地域集団の特性別プログラム(2) 15. 諸外国の健康・栄養政策</p>	実務家教員 非常勤講師:大橋典子	2
栄養指導実習 II (管)	<p>栄養士の専門教育の知識や技術は、人々に伝えるだけで終わるのではなく、QOLの向上のための行動変容まで導くことが必要である。そのために必要な栄養教育・指導の実践力を身につけるための知識や技術が理解できるようになるために、栄養診断の方法や評価について学ぶ。</p> <p>1. 栄養管理状況報告 2. 栄養マネジメント 3. 栄養アセスメント(1) 4. 栄養アセスメント(2) 5. 栄養アセスメント(3) 6. 栄養カウンセリング(1) 7. 栄養カウンセリング(2) 8. 栄養教育法(1) 9. 栄養教育法(2) 10. 栄養評価 11. 栄養教育計画(1) 12. 栄養教育計画(2) 13. 栄養教育計画(3) 14. 栄養教育計画(4) 15. 栄養教育の実践</p>	実務家教員 専任:中東教江	1

調理学実習Ⅲ (管)	調理における専門知識と技術の習得ができるようになるために、日本料理・西洋料理・中国料理の各分野の専門調理師より専門的な調理を学ぶ。また、それぞれの料理の特徴・食文化・食事作法など実践的な応用も身につける。 1. 中国料理① 2. 西洋料理① 3. 日本料理① 4. 中国料理② 5. 西洋料理② 6. 日本料理② 7. 中国料理③ 8. 西洋料理③ 9. 日本料理③ 10. 中国料理④ 11. 西洋料理④ 12. 日本料理④ 13. 中国料理⑤ 14. 西洋料理⑤ 15. 日本料理⑤	実務家教員 専任: 下地隆、水本沙織、日高恵実、森川陽子 非常勤講師: 下川健次 松木稔, 中村春男	1
給食管理実習Ⅱ (管)	事業所・社会福祉施設(保育園、児童福祉施設、特別養護老人ホーム)、小学校において、集団給食施設における栄養士、管理栄養士の役割や業務について理解を深め、給食提供時に必要な専門知識および技術の統合を図る。個人又は2~4人程度のグループ単位の実習で、事前に実習課題の検討を行い、各施設との打ち合わせを行う。実習は5日間である。 (1日8時間×5日)病院での経験を基に行っている。 1. オリエンテーション 2. 栄養管理 3. 栄養管理 4. 事務管理 5. 事務管理 6. 事務管理 7. 作業管理 8. 作業管理 9. 食品管理 10. 食品管理 11. 衛生管理 12. 衛生管理 13. 施設管理 14. 施設管理 15. まとめ	実務家教員 専任: 平林眞弓、水本沙織	1
新調理システム特論 (管)(調)	昨今の食の安全・安心をより確実にするや、安全を確保する技術の取得を理解するため、調理を科学的に分析し、安全な調理をデジタル化することについて学ぶ。 1. 新調理システム概論 2. システム化における衛生管理 3. クックチルシステムとは 4. 真空調理法とは 5. クックチルシステムの実践 6. 真空調理法実践 7. 凍結含浸法 8. 新調理システム総論 9. 新調理システムの最新事例 10. 総合講義 11. まとめ	実務家教員 専任: 下地隆、日高恵美	1
フードスペシャリスト特論 (管)(開)	2年次12月に実施される「フードスペシャリスト」資格認定試験の合格に向けた実力養成講座である。各分野の教員がこれまでの復習を行いながら、新たな情報も加味し、フードスペシャリストとしての知識を着実に身につけさせることを目的としている。2年間の総復習ともなるため、資格取得希望者のみならず、是非とも受講してほしい科目である。 1. オリエンテーション 模擬試験 2. フードスペシャリスト特論 3. フードスペシャリスト特論 4. 食物学 5. 食物学 6. 食品の流通・消費 7. 食品の流通・消費 8. 食品の官能検査 9. 食品の安全性 10. 食品の安全性 11. 調理学 12. 調理学 13. 栄養と健康 14. 栄養と健康 15. まとめ	実務家教員 専任: 岡崎尚、津村なみえ	2
栄養管理特論 (管)	毎年12月初旬に実施される全国栄養士養成施設協会が主催する栄養士実力認定試験を念頭に入れた、2年間の学習の総復習として位置づけられる。将来の管理栄養士国家試験に向けたプレ試験でもあり、実力のある栄養士として巣立ってほしいという本学教員の願いを込めた科目である。本学教員が担当する科目を中心に12月の試験まで、ほぼ週2回のペースで授業を実施していく。 1. オリエンテーション 過去問 2. 栄養学 3. 栄養学 4. 応用栄養学 5. 応用栄養学 6. 食品学 7. 食品加工学 8. 生化学 9. 解剖生理学 10. 解剖生理学 11. 臨床栄養学 12. 臨床栄養学 13. 栄養指導論 14. 給食管理 15. 模擬試験	実務家教員 専任: 岡崎尚、津村なみえ	2
特別研究 (管)(調)(開)	特別研究は、研究論文作成もしくは研究制作のどちらかとし、原則として本学専任教員の指導の下に行う。個人研究、共同研究のどちらでもよい。研究のテーマは、指導教員と相談のうえで決定し、適宜指導教員の指導を受けながら研究・制作を進めていくものとする。 本科目は、在学中に学習した内容の総決算となりうるものであり、学生の意欲的かつ自主的な取り組みを期待したい。 1. 研究テーマの設定 2. 研究・制作の進行 3. 研究・制作の進行 4. 研究・制作の進行 5. 研究・制作の進行 6. 研究・制作の進行 7. 研究・制作の進行 8. 研究・制作の進行 9. 研究・制作の進行 10. 研究・制作の進行 11. 研究・制作の進行 12. 研究・制作の進行 13. 研究・制作の進行 14. 研究・制作の進行 15. 研究論文・制作物の提出	実務家教員 専任: 岡崎尚	4

<p>食品加工学実習 (調)</p>	<p>食品加工は原材料に物理的、化学的、生物的な処理を加えて、原材料には持ち得なかった味や形態、保存性などの新しい価値を付与することを目的として行われる。本実習では、身近で代表的な加工食品を取り上げ、これらを実際に製造することを通して、食品加工に関する知識や技術への理解を深める。</p> <p>1. オリエンテーション 豆類の加工 2. オリエンテーション 豆類の加工 3. 野菜の加工・調味料 4. 野菜の加工 5. 調味料 6. いも類・畜肉の加工 7. いも類の加工 8. 畜肉の加工 9. 豆類・水産物の加工 10. 豆類の加工 11. 水産物の加工 12. 果実類の加工 13. 果実類の加工 14. 果実類の加工 15. 課題実習</p>	<p>実務家教員 専任:津村なみえ、森川陽子</p>	<p>1</p>
<p>応用栄養学 (調)(開)</p>	<p>私たちは誰もが、誕生から成長・発達、加齢するという過程を経る。生涯を通して健康で適切な食生活を実践するために、それぞれのライフステージの特徴とそれに応じた栄養の特性を学ぶ。また、疾病時における栄養の特徴を理解するために、病態と栄養、食事療法の基本的知識についても学ぶ。</p> <p>1.成長・発達・加齢 2.妊娠期の栄養・授乳期の栄養 3.乳児期の栄養 4.幼児期の栄養 5.学童期の栄養・思春期の栄養 6.食物アレルギーと栄養 7.成人期・更年期の栄養・高齢期の栄養 8.食事療法 9.消化管の病気と栄養 10.膵臓・肝臓・胆嚢の病気と栄養 11.腎臓の病気と栄養 12.循環器の病気と栄養 13.代謝性疾患と栄養 ① 14.代謝性疾患と栄養② 15.その他疾患の栄養</p>	<p>実務家教員 専任:津村なみえ</p>	<p>2</p>
<p>調理科学 (調)</p>	<p>食材の特性を学び、調理による食品中の科学的変化を理解することを目的としています。</p> <p>調理概論で学んだ内容からより詳しく、植物性食品(米、小麦粉、芋・でんぷん類、砂糖、豆類、野菜類、果実類、種実類、きのこ類、藻類)、動物性食品(魚介類、食肉類、卵類、乳類)、その他食材(油脂類、ゲル状食品、調味料等)について学んでいきます。</p> <p>1. 植物性食品1 2. 植物性食品2 3. 植物性食品3 4. 植物性食品4 5. 植物性食品5 6. 植物性食品6 7. 植物性食品7 8. 動物性食品1 9. 動物性食品2 10. 動物性食品3 11. 動物性食品4 12. その他の食品1 13. その他の食品2 14. その他の食品3 15. まとめ</p>	<p>実務家教員 専任:藤原久子</p>	<p>2</p>
<p>献立作成 (調)</p>	<p>献立作成は栄養性、嗜好性、安全性、経済性などを基本的要素として、料理の種類、食品数、調理時間、作業工程等を考える必要があります。対象者によって、献立作成での注意点も異なります。</p> <p>本授業では基本的な献立作成の方法を理解し、それぞれの対象にあった献立作成の考え方を学んでいきます。</p> <p>1. オリエンテーション 2. 献立作成にあたり1 3. 献立作成にあたり2 4. 献立作成にあたり3 5. 献立作成にあたり4 6. 献立作成にあたり5 7. 献立内容の検討1 8. 献立内容の検討2 9. 献立内容の検討3 10. 特定給食施設とは 11. 対象別献立作成1 12. 対象別献立作成2 13. 対象別献立作成3 14. 対象別献立作成4 15. 対象別献立作成5</p>	<p>実務家教員 専任:藤原久子</p>	<p>2</p>
<p>給食施設・設備 (調)(開)</p>	<p>科学的衛生、安全を正確に理解できることと、新調理システムを発展的にとらえ、より安全、衛生的な「食」についての知識を理解できるようにするために、施設各種の厨房作りの基礎・基本について学ぶ。</p> <p>1. 施設と設備、安全管理、機能区分 2. 調理施設の種類、機器について 3. 新調理システムについて 4. 真空調理実習 5. 真空調理実習 6. 真空調理実習 7. クックチルシステム 8. クックチルシステム 9. クックチルシステム 10. クックチルシステム 11. クックチルシステム 12. 総合実習 13. 総合実習 14. 凍結含浸法 15. 凍結含浸法</p>	<p>実務家教員 専任:下地隆, 日高恵美</p>	<p>2</p>

調理学実習 V (調)	より実践的な料理・原価・売価設定等、商品として確立された料理の作り方を理解できるようになるため、有名料理店の代表料理及び特殊調味料、特殊材料を使用した実習について学ぶ。さらに各分野への応用性を身につけるため、大量調理における衛生、安全性の重要性を認識させる。 1. 四川料理とその代表料理 2. 広東料理とその代表料理 3. 上海料理とその代表料理 4. 北京料理とその代表料理 5. 宮廷料理とその代表料理 6. 新調味を使った新しい中国料理 7. 香港における飲茶と代表料理 8. 創作中国料理の紹介と作成 9. 特殊調味料、特殊材料とその使用方法① 10. 特殊調味料、特殊材料とその使用方法② 11. フルコースの考え方と提供方法 12. フカヒレを題材としてのフルコース I 13. フカヒレを題材としてのフルコース II 14. 中国料理と大量調理への応用 15. まとめ	実務家教員 専任:下地隆, 日高恵美	1
調理学実習 VI (調)	調理の仕事は、下処理、調理、盛り付けの順に流れ、また包丁で食材を加工する手先の器用さや、盛り付けなどの美的感覚が求められる。段取りや自発的な行動、臨機応変な対応を身につける。また、日本料理は、季節の到来の喜びを食材で感じていただきたいと思って作る。食材の旬を大事にして地域の美味しい海の幸、山の幸を生かした料理を実習を通じて学び、料理の創造に結びつけ幅を広げる力を身につける。 1. 旬を丸ごと 2. 確認試験 3. 秋の恵 4. 紅葉鯛を使って 5. 松花堂弁当 6. 錦秋色々 7. 秋の会席料理 8. 冬の味覚 9. 牡蠣づくし 10. 冬を味わう 11. 祝い肴(1) 12. 祝い肴(2) 13. 祝い肴(3) 14. ふぐをまるごと 15. 模擬試験	実務家教員 専任:水本沙織 非常勤講師:下川健次	1
総合調理実習 I (調)	各自班編成により独自のメニューを作成できるようになるために、1年次で履修した基礎を応用することを学ぶ。また、「給食施設・設備」で学んだ新調理システムを応用しながら試作、学内給食として提供し、栄養・色彩・原価等を本学教職員などの第三者評価していただきながら実践する。「総合調理実習 II」と連携して行う。 1. オリエンテーション 2. 試作、プレゼンテーション 3. 試作 4. 提供 5. 試作 6. 提供 7. 試作 8. 提供 9. 試作 10. 提供 11. 試作 12. 提供 13. 試作 14. 提供 15. まとめ	実務家教員 専任:下地隆, 日高恵美	1
総合調理実習 II (調)	レストラン運営に必要な知識を習得するために、学内給食で実践提供を体験し、接客・マナーの基礎応用について学ぶ。原価管理・評価分析等を組み入れた授業とし、「総合調理実習 I」と連携して行う。 1. オリエンテーション 2. 模擬練習 3. 次回準備、模擬練習 4. 実践・アンケート集計 5. 次回準備、模擬練習 6. 実践・アンケート集計 7. 次回準備、模擬練習 8. 実践・アンケート集計 9. 次回準備、模擬練習 10. 実践・アンケート集計 11. 次回準備、模擬練習 12. 実践・アンケート集計 13. 次回準備、模擬練習 14. 実践・アンケート集計 15. まとめ	実務家教員 専任:下地隆, 日高恵美	1
食育インストラクター特論 (調)	1月に行われる食育インストラクター認定試験合格をめざし、食育の必要性和食育に必要な知識を学ぶ。また、2年間で学んだ専門的な知識や技術を発展させ、食育指導者として社会で活躍できることをめざす。実践的な食育実習として、小学生を対象とした食育教室の運営も行う。 1. なぜ食育か 2. 食事バランス 3. 食育教室の運営(1) 4. 食育教室の運営(2) 5. 食育教室の運営(3) 6. 食育教室の運営(4) 7. 食育教室の運営(5) 8. 食文化の伝承(2) 9. 食文化の伝承(2) 10. 食文化の伝承(3) 11. 食の安全・安心 12. 選食力 13. 日本と世界の食糧事情 14. おいしさと科学 15. まとめ	実務家教員 専任:岡崎尚, 津村なみえ	2
インターンシップ I (調)	インターンシップは、学生が在学中に企業等において自らの専攻や将来のキャリアに関連した就業体験を行うものである。これらの体験によって、社会人になるための意識を高め、自身の適性見極め、学習意欲の向上、さらには社会人としてのマナーやあるべき態度を身につけてほしいと考えている。 1. ガイダンス 2. 事前研修 3. インターンシップ 4. インターンシップ 5. インターンシップ 6. インターンシップ 7. インターンシップ 8. インターンシップ 9. インターンシップ 10. インターンシップ 11. インターンシップ 12. インターンシップ 13. インターンシップ 14. インターンシップ 15. 報告 まとめ	実務家教員 専任:岡崎尚 学外施設の職員	2

<p>栄養調理特論 (調)</p>	<p>調理師技能評価試験にかかる学科試験免除のための「技術考査」合格に向けた実力養成講座である。栄養調理コース調理師取得卒業後、6年間の実務経験のうち、厚生労働省が指定する調理技術技能評価試験を受けることができるが、在学中に「技術考査」試験に合格しておけば、6年後の学科試験は免除されることになり、専門調理師にまた一步近づくこととなる。2年間の総復習ともなるため、是非とも受講してほしい科目である。</p> <p>1. オリエンテーション 模擬試験 2. 栄養学 3. 栄養学 4. 食品学 5. 食品学 6. 食品衛生学 7. 食品衛生学 8. 模擬試験 9. 調理理論 10. 調理理論 11. 食文化概論 12. 調理実習 13. 調理実習 14. 公衆衛生学 15. 総復習、まとめ</p>	<p>実務家教員 専任:岡崎尚, 津村なみえ</p>	<p>2</p>
<p>地域食産業事情 (開)</p>	<p>食品企業で実際になされている技術的業務を知ることは、食品関係の企業へ就職するに当たって、重要なことであり、これまで学んできたことの意義やこれから学ぶことを結び付けて考えることができる。県内食品企業5～6社(大企業から中小企業)を訪問して、技術担当者から直接話を聞くことで、これらの意義を認識するチャンスとなる。食品業界の実態を知る機会にしてみたい。</p> <p>1.オリエンテーション 2.農産物生産者との交流 3.地産地消の取り組み 4.牡蠣養殖と水産加工 5.乳飲料製造業 6.ふりかけ製造業 7.佃煮製造などの製造業 8.こんにやく製造業 9.食肉市場 10.ソース製造業の見学 11.地域で生産される地産地消商品の見学</p>	<p>実務家教員 専任:岡崎尚</p>	<p>2</p>
<p>食品材料学実験 (開)</p>	<p>食品素材や含まれている成分や素材そのものの特性を有効に活用して、多くの加工食品が開発されており、これらの特性を学ぶことは、既存の料理や加工だけでなく、これから新しい商品を開発する上でも基礎的な知識となり、実用面で役立つ。市場で流通している代表的な加工食品を取り上げ、実際に実験を通してそれぞれの素材や成分の特徴を学ぶ。</p> <p>1.穀類の観察と鮮度・品質 2.マメ類(Ⅰ) 3.マメ類(Ⅱ) 4.デンプンの特性 5.海藻の特性(Ⅰ) 6.海藻の特性(Ⅱ) 7.魚類の観察 8.魚肉タンパク質の性質 9.油脂の味とその劣化 10.食品添加物の効果 11.肉類の加工 12.乳製品 13.乳酸発酵 14.酵母による発酵 15.各実験の振り返りと確認</p>	<p>実務家教員 専任:岡崎尚</p>	<p>1</p>
<p>食品加工学実習Ⅱ (開)</p>	<p>食品加工学実習は2部に分かれている。前半では、容器に入れて加熱処理することで、安全性、保存性、流通性、簡便性など実際の加工食品を想定した実習内容とする。</p> <p>後半では、食品廃棄物の有効利用の一環として、“おから”から食感が滑らかな“おからペースト”を作製し、この新素材の活用を目的とした加工実習を行うことで、汎用性のある素材の調製技術を学ぶ。</p> <p>1.加工食品の品質(冷凍食品) 2.加工食品の評価 3.中間水分食品の加熱殺菌 4.試作品の評価 5.チルト食品の試作 6.酸性食品の加熱殺菌 7.試作品の作成 8.試作品の加工実習 9.おからペーストの作製 10.ごぼう餡の作製 11.おからようかんの作製 12.おからアイスの作製 13.うどんの作製 14.おからクッキーの作製 15.学生企画食品の作製</p>	<p>実務家教員 専任:岡崎尚</p>	<p>1</p>
<p>おいしさの科学 (開)</p>	<p>食品の「おいしさ」について科学的な視点から知識を得ておくことは、実際の調理や加工に携わる場合に大いに役立つ。おいしさについて、5味などの基本味に、こくと香りが加わって風味が形成され、硬さや滑らかさなどの食感や温度、色、形状などによって食味が形成される。さらに外部環境や食習慣、食文化が加わり、おいしさが形成される。これらの基本的なことに加えて、様々な食品のおいしさについて学ぶ。</p> <p>1.おいしさの要因(Ⅰ) 2.甘味 3.うま味 4.酸味 5.塩味 6.苦味 7.辛味、渋味 8.油脂、エマルジョン 9.加熱とおいしさ 10.発酵と熟成 11.香り・臭い 12.テクスチャー、音 13.鮮度、色 14.温度、水 15.全体総括</p>	<p>実務家教員 専任:岡崎尚</p>	<p>2</p>
<p>食品開発演習Ⅱ (開)</p>	<p>私たちが食品開発に携わっていくためには、それぞれの加工食品に使われている食品原材料や食品添加物などの幅広い実用的な知識が必要となる。加えて、開発されたものが消費者のし好に沿ったものであることや食品としての安全性や貯蔵性も求められる。この授業では、食品開発演習Ⅰに引き続き、食品学、食品衛生学、食品微生物学などの知識を踏まえた上で、加工食品を実際につくりながら、食品開発のための技術力を養う。</p> <p>1.オリエンテーション 2.レトルト食品Ⅰ概論 3.レトルト食品Ⅱ容器内の温度 4.レトルト食品Ⅲ加熱殺菌条件の計算 5.レトルト食品Ⅳ試作 6.真空調理食品の概論 7.真空調理食品の安全性 8.真空調理食品の試作 9.冷凍食品の加熱 10.HACCの概論Ⅰ 11.HACCP概論Ⅱ 12.一般的衛生管理プログラム 13.HACCPプランの作成Ⅰ 14.HACCPプランの作成Ⅱ 15.まとめ</p>	<p>実務家教員 専任:岡崎尚</p>	<p>1</p>

調理学実験 (開)	食品の特性、調理操作を踏まえた上で、実験を通して科学的に理解することを目的としています。栄養士に必要な調理の基礎知識や調理技術を習得し食品開発実践への足掛かりとします。 1.ガイダンス 2.ガイダンス 3.米粉に関する実験2 4.小麦粉に関する実験1 5.小麦粉に関する実験2 6.小麦粉に関する実験3 7.肉に関する実験1 8.肉に関する実験2 9.牛乳・乳製品に関する実験 10.卵に関する実験 11.ゲル化剤に関する実験1 12.ゲル化剤に関する実験2 13.まとめ1 14.まとめ2 15.まとめ3	実務家教員 専任:藤原久子	1
フードサイエンティスト特論 (開)	食品科学教育協会が与える「フードサイエンティスト」資格の内容を念頭に入れた2年間の総合的な学習を行う。地元の食品企業で実際に問題となっている課題について、企業の技術者からその課題の説明及び課題解決の依頼を受け、学生が主体となって課題解決にあたる。授業形式は特に決まっていないが、実務的な経験を分析・測定や試作などによって修得する。 1.オリエンテーション 2.課題解決案件Ⅰ 3.具体的取組1 4.具体的取組2 5.具体的取組3 6.まとめと報告 7.課題解決案件Ⅱ 8.具体的取組1 9.具体的取組2 10.具体的取組3 11.まとめと報告 12.課題解決案件Ⅲ 13.具体的取組1 14.具体的取組2 15.取り組みのまとめ	実務家教員 専任:岡崎尚	2

専門科目単位数

95

アウトドア演習 (管)(オ) 2学科共通	健康の維持・増進のためには、運動、栄養、休養をライフスタイルの中にバランスよく取り入れていくことが求められている。そこで本科目では、学外の施設を利用し、健康管理の方策を主に運動・休養面から捉え、積極的な健康づくりのための実践例として体験・学習したい。 1. オリエンテーション 2. 演習Ⅰ 3. 演習Ⅱ 4. 演習Ⅲ 5. 演習Ⅳ 6. 演習Ⅴ 7. 演習Ⅵ 8. まとめ	実務家教員 専任:森川陽子	1
--------------------------------	--	------------------	---

履修メインの学科に2学科共通科目を入れている。

2学科共通科目単位数

1

臨床検査学科 実務家教員担当科目 授業概要(専門科目)
2019年度開講科目 新課程(1年2年)

授業科目の名称	講義等の内容	備考	単位数
解剖学	<p>医学の最も基礎的な分野の一つである“人体の正常な構造”を学習してもらう。本講義では細胞・組織の基礎的知識と、各臓器の基本的な肉眼像および顕微鏡像、骨格、脈管、神経の名称やつながり、走向について理解できるよう学習する。</p> <p>1. オリエンテーションと序論 2. 細胞と組織 3. 骨格系 4. 筋系 5. 脈管系とリンパ性器官1 6. 脈管系とリンパ性器官2 7. 呼吸器系 8. 消化器系1～消化管～9 消化器系2 ～肝臓、胆嚢、膵臓～ 10. 泌尿器系 11. 生殖器系 12 神経系1 ～中枢神経～ 13. 神経系2 ～末梢神経～ 14. 内分泌系 15. 感覚器系</p>	<p>実務家教員 非常勤講師： 中谷宣弘</p>	2
生理学	<p>ヒトは、器官、組織、細胞がそれぞれ固有の機能を営みながらも、統率のとれた連携プレーで一つの個体としての生命活動を行っている。ヒトの体の正常な営み(生理機能)を学ぶことは、医療を理解するために必要な基礎知識となる。授業項目は次のとおりである。</p> <p>1, 2. 体液(ホメオスタシス) 3. 血液組織 4. 免疫システム 5, 6. 循環器系 7. 呼吸器系 8. 代謝 9. 体温の調節 10. 消化器系 11. 泌尿器系 12. 内分泌系 13. 神経系, 筋組織 14. 感覚器 15. 遺伝</p>	<p>実務家教員 専任: 溝渕亜矢</p>	2
病理学	<p>病理学とは疾患を解剖学的な形の変化から解析する学問であり、疾患の診断のみならず、発生機序の理解や治療に役立つことを目的としている。広範囲にわたる病理学的知識の効率的な修得のみならず、その後に学習する検査医学全般の理解の助けとなるよう講義を進める。</p> <p>1. 病理学総論 細胞障害と創傷治癒 2. 病理学総論 炎症、感染症 3. 病理学総論 免疫異常 4. 病理学総論 循環障害 5. 病理学総論 代謝異常 6. 病理学総論 腫瘍総論 7. 病理学各論 循環器系疾患 8. 病理学各論 呼吸器系疾患 9. 病理学各論 消化器系疾患 10. 病理学各論 内分泌系疾患 11. 病理学各論 泌尿生殖器系疾患 12. 病理学各論 血液・造血器系疾患 13. 病理学各論 脳・神経系疾患 14. 病理学各論 感覚器系疾患 15. 病理学各論 運動器系、乳腺疾患</p>	<p>実務家教員 専任: 楳清美</p>	2
血液学	<p>血液検査は、日常診療において汎用される検査の一つである。これは血液が全身を循環し病気に対する身体の反応を鋭敏に反映する為である。この講義では細胞成分(白血球・赤血球・血小板)と凝固線溶に関する基本的知識と異常値の捉え方(量的・質的)について学習する。また各種の検査法についても学習する。</p> <p>1. 総論 2. 赤血球 3. ヘモグロビン 4. 鉄代謝 5. 白血球 6. 顆粒球 7. 単球・リンパ球 8. 血小板 9. 血小板 10. 止血機構 11. 血液凝固 12. 血液凝固 13. 線溶系 14. 凝固・線溶の検査法と分子マーカー 15. 細胞表面マーカー</p>	<p>実務家教員 専任: 谷口薫</p>	2
臨床化学	<p>臨床化学は体液(血液・尿・髄液・穿刺液等)や便・組織等の化学物質を分析することにより、病気の診断・治療効果の判定・予後の推定など病態の評価をする学問である。 本講義ではその化学検査の基礎知識と各種分析方法について学ぶ</p> <p>1. 臨床化学分析の目的 2. 臨床化学分析の基本 3. 精度管理Ⅰ 4. 精度管理Ⅱ 5. 精度管理Ⅲ 6. 分光光度法Ⅰ 7. 分光光度法Ⅱ 8. 分光光度法Ⅲ 9. 分光光度法Ⅳ 10. 分光光度法Ⅴ 11. 炎光光度法、原子吸光光度法ほか 12. 免疫学的検査法 13. 電気泳動法 14. クロマトグラフィー 15. POCT、その他の検査法</p>	<p>実務家教員 専任: 岡村美和</p>	2

臨床検査基礎実習	<p>臨床検査ではさまざまな機器、器具を利用して検査を行う。各専門分野の実習が始まる前に、基礎的な機器・器具の操作法、顕微鏡での細胞や組織の見方などを修得する。また、講義で学んだ基礎的な内容を実習を通して理解を深める。</p> <p>1. 顕微鏡の使用法 2. 血液細胞の観察① 3. 血液細胞の観察② 4. 組織標本の観察① 5. 組織標本の観察② 6. 組織標本の観察③ 7. 組織標本の観察④ 8. 組織標本の観察⑤ 9. 心電図検査 10. 肺機能検査 11. ピペットの使い方 12. 試薬の調製法</p>	<p>実務家教員 専任:石河健、谷口薫、 椋清美、岡村美和、 松村直愛</p>	1
公衆衛生学	<p>公衆衛生とは、組織化された地域社会の努力により、疾病を予防し、寿命を延長し、身体的・精神的健康と能率の増進を図る科学であり、技術である。環境とのかかわりの中で人の生から死に至るあらゆる過程が含まれ医学はもとより統計学、疫学、微生物学、免疫学、各種保健等広範な知識を洞察する学問である。これら複雑で膨大な情報の中から国民に正しい健康情報を提供できる専門職としての臨床検査技師を目指す。</p> <p>1.公衆衛生学総論 2. 衛生統計 3. 健康の指標 4. 疫学 5. 疾病予防 6. 感染症 7. 感染症の予防対策 8. 母子保健 9. 成人保健 ・高齢者保健 10. 学校保健・精神保健 11. 生活環境 12. 公害 13. 栄養と食品衛生 14. 産業保健 15. 衛生行政、衛生法規</p>	<p>実務家教員 非常勤講師: 荒谷千登美</p>	2
公衆衛生学実習	<p>I 公衆衛生実習は単にデータを得るだけでは実習の目的を達したとは言えない。データから考えられる公衆衛生的な背景に論及し、考察することが必要である。したがって、与えられた課題結果から考察すべき公衆衛生的背景を理解して実習に臨む。</p> <p>II 細菌学的手法を用いて、飲料水・食品・環境中の細菌や真菌を培養し、汚染度を調べて考察する。</p> <p>1. 環境調査① 2. 環境調査② 3. 環境調査③ 4. 環境調査④ 5. 環境調査⑤ 6. 環境調査⑥ 7. 環境調査⑦ 8. 環境調査⑧ 9. 環境調査⑨ 10. 環境調査⑩ 11. 環境の細菌① 12. 環境の細菌② 13. 環境の細菌③ 14. 環境の細菌④ 15. 環境の細菌⑤</p>	<p>実務家教員 非常勤講師: 荒谷千登美</p>	1
保健医療福祉概論	<p>少子高齢化に伴い、医療だけでなく福祉が重視されてきている。医療は疾病の中心であるが、福祉は疾病だけでなくいかに健康を維持・管理するか、社会・国家的レベルの社会保障制度、医療法、医療提供体制としての医療施設の種類など、新しい見方が必要になってきた。そのために先ず、福祉の発展の歴史と定義、医の倫理、患者の心理など医療人が理解しておかなければならない基礎知識を、社会保障制度などの諸制度に加える。</p> <p>1. 医療に従事する職種と資格 2. わが国の医療制度 3. 医療提供体制、医療法とその改正 4. 医療保険制度 5. 社会保障制度と医療財政 6. 病院医療の質の維持と向上 7. 保健医療福祉の対象 8. 医の倫理と医療従事者の心構え</p>	<p>実務家教員 非常勤講師: 森田益子</p>	1
医用工学	<p>高度に発展した現代の医療は、多くの工学技術に支えられている。医用工学はこの工学的知識を体系化したものである。本講義では、工学の基礎として主に電気工学、電子工学を学習する。また、各種エネルギーを加えることで、生体の反応をあり方について生体物性工学や医用安全管理学などを通じて学習する。</p> <p>1.医用工学の基礎① 2.電気工学の基礎① 3.電気工学の基礎② 4.電気工学の基礎③ 5.電気工学の基礎④ 6.電子工学の基礎① 7.電子工学の基礎② 8.電子工学の基礎③ 9.電子工学の基礎④ 10.生体物性工学の基礎① 11.生体物性工学の基礎② 12.医用安全管理学の基礎① 13.医用安全管理学の基礎② 14.医用工学の応用 15.まとめ</p>	<p>実務家教員 専任:吉田誉</p>	2
医用工学実習	<p>医用工学を行う上で必要になってくる電気回路および電子回路の基礎を、本実習を踏まえて学習する。実際に電気回路、電子回路を各自で組み実験を行うことにより、回路のメカニズムを理解する。また、器具の取り扱い方法や測定の結果についての考察や検討できるスキルを身につけることを目的とする。</p> <p>1.医用工学実習① 2.医用工学実習② 3.医用工学実習③ 4.医用工学実習④ 5.医用工学実習⑤ 6.医用工学実習⑥ 7.医用工学実習⑦ 8.医用工学実習⑧ 9.医用工学実習⑨ 10.医用工学実習⑩ 11.医用工学実習⑪ 12.医用工学実習⑫</p>	<p>実務家教員 専任:吉田誉</p>	1

情報科学	<p>情報処理の基礎、情報の定量的取り扱い、コンピュータ内部の情報表現、暗号化技術、システムを構成するハードウェア、ソフトウェア、ネットワークの構造や機能、さらに、これらによって構成されるシステム全体の構造、開発手順について、情報科学および情報工学を通じて学習する。</p> <p>1.情報の基礎 2.情報表現① 3.情報表現② 4.情報数学① 5.情報数学② 6.ハードウェア① 7.ハードウェア② 8.ソフトウェア① 9.ソフトウェア② 10.応用技術① 11.応用技術② 12.通信とネットワーク① 13.通信とネットワーク② 14.セキュリティ 15.まとめ</p>	実務家教員 専任:吉田蒼	2
情報科学実習	<p>パーソナルコンピュータ(PC)の操作になれ、日常的に多く使用されているメール、ブラウザ(インターネット)、ワードプロセッサ(Word)、表計算(Excel)、プレゼンテーション(PowerPoint)などの基本ソフトウェアを中心に基本操作を習得する。</p> <p>1.基本操作① 2.基本動作② 3.基本動作③ 4.基本動作④ 5.ソフトウェアによる基本動作① 6.ソフトウェアによる基本動作② 7.ソフトウェアによる基本動作③ 8.ソフトウェアによる基本動作④ 9.ソフトウェアによる基本動作⑤ 10.ソフトウェアによる基本動作⑥ 11.ソフトウェアによる基本動作⑦ 12.ソフトウェアによる基本動作⑧</p>	実務家教員 専任:吉田蒼	1
血液検査学	<p>血液検査は、日常診療において汎用される検査の一つである。これは血液が全身を循環し病気に対する身体の反応を鋭敏に反映する為である。この講義では細胞成分(白血球・赤血球・血小板)と凝固線溶に関する基本的知識と異常値の捉え方(量的・質的)について学習する。また各種の検査法についても学習する。</p> <p>1. 総論 2. 赤血球 3. ヘモグロビン 4. 鉄代謝 5. 白血球 6. 顆粒球 6. 探求・リンパ球 8. 血小板 9. 血小板 10. 止血機構 11. 血液凝固 12. 血液凝固 13. 線溶系 14. 凝固・線溶の検査法と分子マーカー 15. 細胞表面マーカー</p>	実務家教員 専任:谷口薫	2
血液検査学実習	<p>血液学を基礎として、血液疾患の基本的概念を理解する。血液疾患に関わる基礎的知識と異常値の捉え方(量的・質的)についても学習する。また、血液疾患の鑑別に必要とされる検査法について学習する。</p> <p>1. 赤血球系の基準範囲 2. 赤血球形態の異常 3. 小球性低色素性貧血 4. 正球性正色素性貧血 5. 大球性正色素性貧血・赤血球増加症 6. 白血球の形態異常と異常血球 7. 白血球機能異常・白血球増加症・白血球減少症・リンパ球の異常 8. 普通染色・特殊染色 9. 急性骨髄性白血病・FAB分類 10. 急性リンパ性白血病 11. 慢性白血病・特殊な白血病 12. 骨髄増殖性疾患・骨髄異型性症候群 13. 血小板の以上による出血性素因 14. 凝固・線溶因子の異常 15. 血管の異常・血栓性素因</p>	実務家教員 専任:谷口薫、石河健	1
一般検査学	<p>まず、検査を行う上で必要な採血の方法、検体の取り扱いなど基本的なことを学習する。さらに専門的検査の前のスクリーニング的な役割を果たす一般検査について、検査法、意義、疾患との関連を学習し、その重要性を理解する。</p> <p>1. 尿の生成 2. 尿検査① 3. 尿検査② 4. 尿検査③ 5. 尿検査④ 6. 尿検査⑤ 7. 尿検査⑥ 8. 糞便検査 便の性状、便潜血検査 9. 髄液検査 10. 穿刺液検査他 11. 尿沈渣① 12. 尿沈渣② 13. 尿沈渣③ 14. 尿沈渣④ 15. 尿沈渣⑤</p>	実務家教員 専任:松村直愛	2
一般検査学実習	<p>臨床検査における一般検査とは各専門分野の前に行う基礎的な検査として位置づけられており、手技が簡単で迅速にできる検査である。実習ではまず、検査の基礎となる検査器具の使用法、検体の取り扱いを学ぶ。さらに尿、便、髄液などを用いた化学的検査および、形態学的検査の手法を習得し、スクリーニング検査としての一般検査の重要性を理解する。</p> <p>1. 機器・器具の使い方 2. 一般検査① 3. 一般検査② 4. 一般検査③ 5. 一般検査④ 6. 尿沈渣① 7. 尿沈渣② 8. 尿沈渣③ 9. 尿沈渣④ 10. 尿沈渣⑤ 11. 寄生虫の観察① 12. 寄生虫の観察②</p>	実務家教員 専任:松村直愛、椋清美	1

生理機能検査学 I	<p>循環器・脈管疾患・脳波・聴力検査についての原理や方法を理解し関連する病態について学習する。</p> <p>1. 生体検査の種類と姿勢 正常心電図 2. 異常心電図(リズムの異常) 3. 異常心電図(波形の異常) 4. 負荷心電図(波形の異常) 5. ホルター・その他の心電図 6. 正常心音図 7. 異常心音図 8. 脈波・心尖・指尖容積脈波 9. 脈管疾患検査 10. 脳波の起源 正常脳波 11. 脳波波形 脳波賦活 12. 異常脳波(波形) 13. 異常脳波 14. 睡眠脳波 15. 誘発脳波</p>	実務家教員 専任:石河健、溝渕亜矢	2
検査機器総論	<p>臨床検査は各種の分析法や分析機器の進歩によって支えられています。検査情報の元となる臨床検査で使用される各種機器の原理と構造および正しい使用方法などを学習する。</p> <p>1. 検査機器総説 容量器、秤量器の取り扱い 2. 血液検査機器、顕微鏡装置 3. 化学検査機器、測光装置 4. 病理検査機器、攪拌装置、保冷装置 5. 微生物検査機器 恒温装置、滅菌装置 6. 免疫血清検査機器、分離分析装置、遺伝子検査装置 7. 生理検査機器 8. POCT、電気化学装置</p>	実務家教員 専任:石河健、谷口薫、小野寺利恵、椋清美、岡村美和	1
検査特論 I	<p>広く医療に知識や関心を持つことで、医療における臨床検査の役割を理解していくことができる。また、施設見学や解剖見学を通して、自分が目指している臨床検査技師は患者様の命に対する責任と義務があることを認識し、職業意識を強く持たなければならぬ。これらの意識を育てるための授業内容となっている。</p> <p><内容></p> <p>1. 病院見学(接遇についての事前学習)</p> <p>2. 解剖見学(事前学習・発表含む)</p> <p>3. 施設見学(大学が認めたもので全員参加のものに限る)</p> <p>4. 学会および研修会等(大学が認めたもので全員参加のものに限る)</p> <p>5. ラベルワーク</p>	実務家教員 専任:谷口薫、石河健、小野寺利恵、椋清美、溝渕亜矢 病院、検査センター、血液センター職員	1
臨床検査医学	<p>臨床検査は、疾患の診断・治療方針の決定・治療効果の判定等に必要の客観的情報を提供し、現代医療を支えている。講義では、臓器別および疾患別に選択される臨床検査について学び、代表的な疾患の病態と用いられる臨床検査の関連について考える。</p> <p>1. 臨床検査の意義、検査情報の活用法 2. 臨床検査学 総論 3. 循環器疾患の検査1 4. 循環器疾患の検査2 5. 消化器疾患の検査、肝・胆・膵系疾患の検査1 6. 内分泌疾患の検査1 7. 内分泌疾患の検査2 8. 腫瘍マーカーの検査 9. 感染症の検査 有毒物中毒の検査、10. 血液・造血器疾患の検査 11. 腎・尿路疾患の検査 12. 呼吸器疾患の検査 感覚器疾患の検査 13. 体液・電解質・酸・塩基平衡の検査、神経・運動器疾患 14. アレルギー・免疫病の検査・染色体・遺伝子異常検査 15. 代謝・栄養異常の検査</p>	実務家教員 専任:石河健、谷口薫、小野寺利恵、椋清美、岡村美和、松村直愛	2
臨床病態学 I	<p>今までに学んできた基礎医学、臨床医学や臨床検査の知識を用い、様々な症例(case)の病歴・診察所見・検査データから疾患の病態生理を考える。本講義では、循環器疾患・呼吸器疾患・内分泌疾患・膠原病・代謝疾患・腎疾患・神経筋疾患を扱う。Case Studyと合わせ、病態を理解する基礎となる生理学・解剖学についても復習を行う。</p> <p>1. 循環器疾患1 2. 循環器疾患2 3. 循環器疾患3 4. 呼吸器疾患1 5. 呼吸器疾患2 6. 呼吸器疾患3 7. 内分泌疾患1 8. 内分泌疾患2 9. 腎疾患 10. 膠原病1 11. 膠原病2 12. 代謝疾患1 13. 代謝疾患2 14. 神経・筋疾患 15. まとめ</p>	実務家教員 非常勤講師: 藤原恵	2
臨床病態学 II	<p>広く医療に関する講義を聴くことにより、医療における臨床検査の役割を理解していくことができる。自分が目指している臨床検査技師は患者様の命に対する責任と義務があることを認識し、職業意識を強く持たなければならぬ。臨床検査に関連した各々の専門家を招いて講演、実技指導をしていただく。</p> <p>1. 婦人科① 2. 婦人科② 3. 小児科① 4. 小児科② 5. HIV① 6. HIV② 7. 遺伝子検査学① 8. 遺伝子検査学②</p>	実務家教員 非常勤講師: 香月貴文 山崎尚也 岡崎富雄 川井信太郎	1

病理検査学	<p>病理学は、疾病の原因を解明し、その発症機序を解明する学問である。その場合、病変の根底となる細胞、組織の変化を検索することが必要である。</p> <p>病理検査学は、これらの細胞、組織を顕微鏡下で観察できるように細胞、組織の標本を作製する学問であり、その標本作製に必要な固定、染色などの基本的技術あるいはそのメカニズムを学ぶことを目的としている。特に前期は組織を中心に学習する。</p> <p>1. 病理組織学的検査法の意義 2. 病理組織標本作製の手順 3. 組織片の切り出し 4. 組織の固定法 5. 組織の脱灰法 6. 組織の包埋法 7. 組織の薄切法 8. 組織標本の日常染色法 I 9. 組織標本の日常染色法 II 10. 膠原線維の染色法 11. 弾性線維の染色法 12. 細網線維の染色 13. 脂質の染色法 14. 多糖類の染色法 15. まとめ</p>	実務家教員 専任:楳清美	2
病理検査学実習	<p>病理組織学においては病理診断の困難な症例、組織成分の増殖した症例、ある物質の沈着した症例など種々多様な症例がみられる。これらの症例では日常染色に加えて特殊染色が必要である場合がある。</p> <p>この実習ではその日常染色標本と特殊染色標本の作製技術を習得する。</p> <p>1. 組織の切出し、脱水、脱脂技術 2. パラフィン包埋・薄切技術 3. 薄切と日常染色技術 (I) 4. 膠原線維の染色 5. 弾性線維と膠原線維の染色 6. 細網線維の染色 7. 多糖類の染色 8. 脂肪の染色 9. 粘液、アミロイドの染色 10. 核酸の染色 11. 無機物の染色 12. 凍結切片作製法</p>	実務家教員 専任:楳清美	1
病理組織細胞検査学	<p>病理学は、疾病の原因を解明し、その発症機序を解明する学問である。その場合、病変の根底となる細胞、組織の変化を検索することが必要である。</p> <p>病理検査学は、これらの細胞、組織を顕微鏡下で観察できるように細胞、組織の標本を作製する学問であり、その標本作製に必要な固定、染色などの基本的技術あるいはそのメカニズムを学ぶことを目的としている。特に前期は組織を中心に学習する。</p> <p>1. 病理組織学的検査法の意義 2. 病理組織標本作製の手順 3. 組織片の切り出し 4. 組織の固定法 5. 組織の脱灰法 6. 組織の包埋法 7. 組織の薄切法 8. 組織標本の日常染色法 (I) 9. 組織標本の日常染色法 II 10. 膠原線維の染色法 11. 弾性線維の染色法 12. 細網線維の染色 13. 脂質の染色法 14. 多糖類の染色法 15. まとめ</p>	実務家教員 専任:楳清美	2
病理組織細胞検査学実習	<p>後期の前半は、前期に引き続き、各種の染色法の技術を習得し、後半は既に学習した病理組織像を基礎知識として、各種検体の細胞診標本の作製法、更に各臓器の細胞学的検査とその所見を中心にその技術を習得し、更に良性細胞、感染などによる異型細胞及び悪性細胞の鑑別点を習得することを目的としている。</p> <p>1. フッカー・コーン染色 2. チール・ネルゼン染色 3. ワルチン・スターリー染色 4. グロコット染色法 5. ビクトリア青染色法 6. マッソン・フォンタナ染色法 7. グリメリウス染色法 8. クリューパー・バレーラ染色法、免疫染色 9. 細胞診検体の標本作製法 10. 婦人科系細胞診、体腔液の細胞診 11. 呼吸器の細胞診 12. 泌尿器系及びその他の細胞診</p>	実務家教員 専任:楳清美	1
臨床化学検査学 I	<p>臨床化学検査学は体液中に存在する各種の化学物質の代謝や異常が起こるメカニズムを学び、併せて各種の検査結果がどの様に結びつき、また各臓器機能と病態との関連を学ぶとともに、その測定法(分析法)を学ぶ。</p> <p>1. 電解質と微量元素 I 2. 電解質と微量元素 II 3. 電解質と微量元素 III 4. 糖質検査 I 5. 糖質検査 II 6. 脂質検査 I 7. 脂質検査 II 8. 脂質検査 III 9. 脂質検査 IV 10. タンパク質検査 I 11. タンパク質検査 II 12. タンパク質検査 III 13. タンパク質検査 IV 14. 非タンパク性窒素化合物検査 I 15. 非タンパク性窒素化合物検査 II</p>	実務家教員 専任:岡村美和	2
臨床化学検査学 II	<p>臨床化学検査学 II では前期に引き続き、存在する各種の化学物質の代謝や異常が起こるメカニズムを学び、併せてその測定法 (RIを含む) を理解する。また検査結果からその臓器機能評価と病態を理解する。</p> <p>1. 臨床酵素 I 2. 臨床酵素 II 3. 臨床酵素 III 4. 臨床酵素 IV 5. 臨床酵素 V 6. 骨代謝マーカー 7. ホルモン I 8. ホルモン II 9. ホルモン III 10. ホルモン IV 11. 臨床化学と各種病態 I 12. 臨床化学と各種病態 II 13. 臨床化学と各種病態 III 14. 酸・塩基平衡、栄養・薬物検査 15. 臨床化学検査データの読み方</p>	実務家教員 専任:岡村美和	2

臨床化学検査学実習Ⅰ	<p>臨床化学検査学で学習した分析法を実際に体験することを目的とする。臨床化学検査法の基礎を学び、各種秤量器具の正しい使い方、薬品の保管、秤量、調整等を行い、測定法の留意する点を考慮しながら分析し、測定結果の信頼性を確認する。検査結果から異常値のメカニズムや病態を考える。</p> <p>1. 基礎実習① 2. 基礎実習② 3. 実習準備 4. グルコース測定 5. 実習準備 6. 総蛋白・アルブミン測定、蛋白分画測定 7. 総蛋白・アルブミン測定、蛋白分画測定 8. 実習準備 9. ビリルビン測定 10. 尿素、クレアチニン測定 11. 実習準備 12. 脂質検査</p>	実務家教員 専任:岡村美和	1
臨床化学検査学実習Ⅱ	<p>前期の臨床化学検査学実習に引き続いて、後期は特に微量金属および酵素測定法を中心に試薬を調整し、測定実習を行う。 終点分析(End point assay)と初速度分析(Kinetic analysis rate assay)の違いや、初速度分析法でのKm値測定など化学的分析法を学ぶ。</p> <p>1. カルシウム測定 2. カルシウム測定 3. 無機リン測定 4. 無機リン測定 5. アルカリホスファターゼ測定(Kind-King法) 6. アルカリホスファターゼ測定Km値 7. アルカリホスファターゼの測定(rate法) 8. アルカリホスファターゼ測定(rate法) 9. ALTの測定 10. ALTの測定 11. 乳酸脱水素酵素アインザイム測定 12. 乳酸脱水素酵素測定</p>	実務家教員 専任:岡村美和	1
染色体・遺伝子検査学実習	<p>現在、病院検査室では、抗酸菌、クラミジア、HBV、HCV、HIVなどの感染症や、移植におけるHLAタイピング、キメラの検査を遺伝子の技術を用いて検出する時代となった。また、白血病の検査では染色体・遺伝子異常の検出が主になっている。将来医療の多くの分野でさらに発展していく分野であり、DNAの抽出、電気泳動によるDNA確認法、PCRなどの遺伝子操作の基本的技術の習得を目的とする。</p> <p>1. 遺伝子検査の基礎知識 2. 感染症関連の遺伝子検査 3. 染色体検査 4. 染色体検査(培養) 5. 染色体検査(観察) 6. DNA抽出 7. ALDH2遺伝子検出 8. マイクロサテライトDNA 多型の検出</p>	実務家教員 専任:小野寺利恵、岡村美和	1
免疫検査学	<p>病気の診断に必要な臨床検査には抗原抗体反応を用いたものが多い。抗原抗体反応の種類は多くあるが、それぞれの反応原理について学ぶ。また、各種疾患の診断に用いられる検査法について学び、それぞれの検査法の臨床的意義を理解する。</p> <p>1. 免疫学的検査の原理 2. 沈降反応 3. 凝集反応 4. 溶解反応 5. 中和反応 6. 非標識抗原抗体反応 7. 標識抗原抗体反応 8. 電気泳動法 9. 感染症の検査 10. アレルギー検査 11. 自己免疫疾患関連検査 12. 免疫不全症関連検査 13. 腫瘍マーカー検査 14. 血清蛋白異常症関連検査 15. 自動化免疫検査法</p>	実務家教員 専任:小野寺利恵	2
免疫検査学実習	<p>病気の診断に必要な臨床検査には抗原抗体反応を用いたものが多い。種々の方法による試験管内抗原抗体反応を実習することによって、各検査法の目的と反応原理および疾患の診断データとしての臨床的意義を理解させる。</p> <p>1. 採血 2. 沈降反応 3. 直接凝集反応 4. 間接凝集反応 5. 溶解反応 6. 免疫電気泳動 7. 標識抗原抗体反応(1) 8. 標識抗原抗体反応(2)</p>	実務家教員 専任:小野寺利恵	1
輸血・移植検査学	<p>補充療法の一つである輸血、高度先進医療である臓器移植や骨髄移植について、これら治療法の意義を理解するとともに、必要な基礎知識と検査法について学ぶ。また、最新の再生医療についても紹介する。</p> <p>1. 輸血療法 2. 輸血用血液製剤の種類と特性 3. 輸血の適応と製剤の選択 4. ABO式血液型 5. Rh式血液型 6. その他の血液型 7. 赤血球抗体検査 8. 交差適合試験 9. 輸血副作用 10. 自己血輸血 11. 新生児溶血性疾患 12. 白血球・血小板・顆粒球抗原と臨床的意 13. 移植免疫と検査 14. 免疫機能検査 15. 再生医療</p>	実務家教員 専任:小野寺利恵	2
輸血・移植検査学実習	<p>輸血や移植関連検査は、高度先進医療には欠かせない重要な検査である。安全な輸血、成功率の高い移植のためには、高度な知識と技術が必要である。輸血、移植に必要な臨床検査の基本的術式と関連した免疫機能検査法を学ぶ。</p> <p>1. ABO式血液型、Rh式血液型判定法 2. 抗A抗B凝集素価の測定 3. 唾液中の血液型物質測定 4. 不規則抗体検出法 5. 交差適合試験 6. リンパ球混合培養試験 7. 白血球凝集法(MLAT) 8. リンパ球細胞障害性試験(LCT)</p>	実務家教員 専任:小野寺利恵	1

生理機能検査学Ⅱ	超音波検査(腹部・心臓)の原理や方法、病理を理解する。呼吸機能、電気生理について検査内容と病理について学習する。 1. 超音波の基礎 2. 超音波検査機器の構造と機能 3. 腹部臓器の解剖・生理 4. 腹部超音波 肝臓 脾 胆嚢 5. 腹部超音波 腎 脾 6. 換気機能 7. 肺胞機能 8. 血液ガス 9. 針筋電図 10. 神経伝導検査 11. 心臓超音波 正常基本画像 12. 心機能評価 13. 心臓超音波と病態 14. 頸動脈超音波 15. 体表・骨盤腔・下肢超音波	実務家教員 専任:石河健、溝渕亜矢	2
生理機能検査学Ⅲ	眼底検査・画像検査・感覚機能検査に関する原理や方法を理解し、それらの検査に関連する病態について学習する。 1. 無散瞳眼底検査 2. 無散瞳眼底検査 3. 磁気共鳴画像 4. 磁気共鳴画像 5. 磁気共鳴画像 6. 平衡検査 7. 聴力検査 8. 味覚・臭覚検査	実務家教員 専任:石河健、溝渕亜矢	1
生理機能検査学実習Ⅰ	生体検査の特性を知った上で、機器に慣れ、信頼できるデータを提供し、緊急時の対処法を指導する。腹部超音波検査では各臓器を描出し主要な病態、心電図実習では12誘導心電図、R-R心電図、負荷心電図の実習、脳波では電極装着、賦活脳波を実習する。また、検査時における患者対応、接遇についても学ぶ。(2部に別れ指導する) 1. 心電図 四肢誘導 2. 心電図 胸部誘導 3. 心電図 12誘導 4. 負荷心電図 5. 負荷心電図 6. 脳波 電極装着 7. 脳波 誘導法 8. 脳波 賦活法 9. 脳波 10. 脳波 11. 腹部超音波 肝臓 12. 腹部超音波 胆のう 13. 腹部超音波 腎臓 14. 腹部超音波 膵臓・脾臓 15. 超音波 頸動脈	実務家教員 専任:石河健、溝渕亜矢、松村直愛	2
生理機能検査学実習Ⅱ	呼吸機能では肺活量、努力性肺活量また、機能的残気量、拡散能力の検査を実習し、筋電図検査(神経電導速度)検査では適切な部位で刺激できるよう、心臓超音波検査では基本断層像の描出、各検査ともに手技を覚え、信頼できるデータを提出できるよう指導し、それぞれの病態についても理解する。(2部に別れ指導する) 1. 呼吸機能検査 スパイロメトリ・フローボリューム曲線 2. 検査結果と病態 3. 機能的残気量検査 4. 肺拡散能力検査 5. 無散瞳眼底検査 6. 心臓超音波検査 胸骨左縁長軸 B・M モード 7. 胸骨左縁短軸像の描出 壁運動観察 8. 心尖部長軸像 流入血流波形 9. 心尖部2・4腔像の描出 逆流の有無 10. その他の超音波検査 経頭蓋 下肢血管 婦人科検査 11. 運動神経 感覚神経(正中、尺骨、橈骨) 12. 運動神経 感覚神経(後脛骨、腓骨神経) 13. 体性感覚誘発電位(正中、尺骨、腓骨神経) 14. 臭覚・味覚検査実習 15. 心臓超音波検査マニュアル グループ発表	実務家教員 専任:石河健、溝渕亜矢、松村直愛	2
ゼミナール	主指導教員の科目を選択し、個人別にテーマを探して研究を実施します。研究テーマは主指導教員と相談の上決定する。研究テーマ、研究概要、実施計画、文献調査等を実施し、調査、分析能力、問題発見能力、問題解決能力、構想力、プレゼンテーション及び論文等による表現能力を養成する。	実務家教員 専任:谷口薫、石河健、小野寺利恵、椋清美、溝渕亜矢	1
医療安全管理学	臨床検査技師は細心の注意を払って業務を遂行することが求められている。そのためには「患者の安全対策」「検査室の安全対策」「医療機器の安全管理」と、管理責任が問われることになる。本講座では、様々な過程での安全管理手法と過誤(事故)の対処について学ぶ。 1. 安全管理学の概要 医の倫理 検査室労働安全衛生管理指針 1)安全管理のための作業条件の要件 2)システムを確立するために実施すべき事項 3)インシデント・アクシデントレポート 2. 検査室労働安全衛生管理指針 4)医療事故の処理対策の基本的事項 5)臨床検査に関わる苦情処理対策 6)検査室労働安全衛生マネジメントシステム構築ガイドライン 3. 検査室医療安全管理指針 1)患者対応において共通する基本的事項 2)検体検査において必要な基本的事項 3)輸血検査安全対策の基本的事項 4)生理機能検査安全対策の基本的事項 5)病理検査安全対策の基本的事項 6)針刺し・血液付着・切創対策の基本的事項 7)院内感染対策の基本的事項 8)盗難・紛失対策の基本的事項 4. 医療機器管理に関する安全管理指針Ⅰ 1)適用範囲 2)安全管理と環境 3)文書化と記録の管理 4)教育・訓練 5)医療機器導入管理 6)保守 5. 医療機器管理に関する安全管理指針Ⅱ 7)故障と対応 8)リスクマネジメントの医療機器への対応 9)医療機器規格 10)検査室情報システムの安全指針 6. 危機管理指針 1)リスクマネジメント 2)内部統制環境 3)業務継続と共に求められるもの 4)用語の定義 5)業務継続計画および取り組みの内容 7. 公衆衛生の動向Ⅰ 1)人口動態 2)疾病と受療状況 8. 公衆衛生の動向Ⅱ 3)医療関係者の現状 4)医療施設の現状 5)医療保障制度の概要	実務家教員 専任:谷口薫	1

臨床検査学科 実務家教員担当科目 授業概要(専門科目)
2019年度開講科目 旧課程(3年)

公衆衛生学演習	<p>国家試験科目の公衆衛生学分野を講義する。過去の問題を解説し、今後出題されそうな下記的重要事項について講義する。</p> <p>1.保健医療 2.予防医学と健康増進 3.疫学 疫学概念 4.衛生統計 5.母子・高齢者・精神保健 6.感染症対策 7.産業保健 8.衛生行政と衛生法規</p>	<p>実務家教員 非常勤講師: 荒谷千登美</p>	1
医用工学概論演習	<p>臨床検査技師国家試験の医用工学概論の分野を復習を兼ねて演習する。過去の問題から、今後出題されそうな重要事項について解説する。</p> <p>1.医用工学演習1 2.医用工学演習2 3.医用工学演習3 4.医用工学演習4 5.医用工学演習5 6.医用工学演習6 7.医用工学演習7 8.医用工学演習8 9.医用工学演習9 10.医用工学演習10 11.情報科学演習1 12.情報科学演習2</p>	<p>実務家教員 専任:吉田誉</p>	1
臨床病態学Ⅱ	<p>今迄に学んできた基礎医学、臨床医学や臨床検査の知識を用い、様々な症例(case)の病歴・診察所見・検査データから疾患の病態生理を考える。本講義では、循環器疾患・呼吸器疾患・内分泌疾患・膠原病・代謝疾患・腎疾患・神経筋疾患を扱う。 Case Studyと併せ、病態を理解する基礎となる生理学・解剖学の復習をおこなう。</p> <p>1.循環器疾患 1 2.循環器疾患 2 3.循環器疾患 3 4.呼吸器疾患 1 5.呼吸器疾患 2 6.呼吸器疾患 3 7.内分泌疾患 1 8.内分泌疾患 2 9.腎疾患 10. 膠原病 1 11.代謝疾患 1 12.代謝疾患 1 13.代謝疾患 2 14.神経・筋疾患 15.マトメ</p>	<p>実務家教員 専任:石河健、岡村美和、 小野寺利恵、溝渕亜矢</p>	1
臨床病態学Ⅲ	<p>臨床検査は各種疾患の正しい診断と治療のために適切な情報を提供する役割を担っている。そして病態解析に必要な検査法の熟知と検査結果を判読し、説明ができる臨床検査技師の需要が高まっている。そういった需要に対して本講義では、質の高い検査情報を提供するために多岐にわたる症例の検査結果をもとに病態を解析・推測して理解する。</p> <p>1～2.消化器疾患における病態解析と検査データの分析 3～4.血液・造血器疾患における病態解析と検査データの分析 5～6.感染症における病態解析と検査データの分析 7～8.悪性腫瘍における病態解析と検査データの分析</p>	<p>実務家教員 非常勤講師: 石田誠子</p>	1
臨床検査医学総論演習	<p>臨検技師国家試験科目の中から臨床医学、臨床病理学を中心に医学史・医学概論などを加え講義する。今までに出題された問題の演習を中心に進め、重要項目の小講義や確認テストを適宜加える。臨検技手国家試験に独特な問題の解法に習熟し、新傾向の問題にも対応できるように、国試対策に特化した講義をおこなう。</p> <p>1.循環器疾患 2.呼吸器疾患 3.腎・尿路・性器疾患 4.消化器疾患 5.血液疾患 6.感染症 7.アレルギー性疾患・膠原病・免疫不全症 8.内分泌疾患 代謝疾患・栄養障害 9.神経筋疾患 10.染色体・遺伝子、腫瘍マーカー</p>	<p>実務家教員 専任:谷口薫、石河健、小 野寺利恵、椋清美、溝渕 亜矢</p>	1
病理組織細胞学演習	<p>国家試験科目の病理組織細胞学分野の解剖学・病理学・組織細胞検査学を講義する。 過去に出題された問題の演習を中心に解説し、重要項目について講義をする。</p> <p>1.解剖学 2.解剖学 3.病理学 4.病理学 5.病理学 6.病理検査学 7.病理検査学 8.病理検査学 9.病理検査学 10.病理検査学</p>	<p>実務家教員 専任:椋清美</p>	1
臨床血液学演習	<p>臨床検査技師国家試験科目の臨床血液学を講義する。過去に出題された問題の演習を中心に解説し、重要項目について講義をする。</p> <p>1.国家試験過去問題復習 2.国家試験過去問題復習 3.国家試験過去問題復習 4.国家試験過去問題復習 5.国家試験過去問題復習 6.国家試験過去問題復習 7.国家試験過去問題復習 8.国家試験過去問題復習 9.国家試験過去問題復習 10.国家試験過去問題復習 11.国家試験過去問題復習 12.国家試験過去問題復習</p>	<p>実務家教員 専任:谷口薫</p>	1

臨床化学演習	<p>国家試験の臨床化学分野として臨床化学検査学、生化学及び染色体・遺伝子検査学を再学習し理解度を深める。 過去の国家試験問題を解説しそのポイントについて考えさせ、問題を解決させる。</p> <p>1.糖質・糖代謝・糖タンパクについて 2.タンパク質について 3.タンパク質について 4.リポタンパクの代謝について 5.脂質成分について 6.酵素反応速度論について 7.酵素について 8.電解質について 9.酸・塩基平衡について 10.ホルモン検査について 11.各種機能検査について 12.炎症・栄養・薬物モニタリングについて 13.細胞の構造と働きについて 14.糖質、脂質の構造と働きについて 15.タンパク質、核酸の構造と働きについて</p>	実務家教員 専任:岡村美和	1
臨床検査総論演習	<p>国家試験の臨床化学分野として臨床化学検査学、生化学及び染色体・遺伝子検査学を講義する。過去の問題を解説し、今後出題されそうな重要事項について講義する。</p> <p>1.検体の保存、取扱い、尿の性状 2.尿一般検査 3.その他の尿検査、糞便検査 4.尿沈渣検査① 5.尿沈渣検査② 6.髄液、穿刺液 7.綿虫各論 8.吸虫類各論 9.糸虫類各論 10.原虫類各論 11.衛生害虫各論および総括</p>	実務家教員 専任:松村直愛、椋清美	1
臨床免疫学演習	<p>国家試験科目の臨床免疫学分野の免疫検査学、輸血・移植検査学を講義する。過去の問題を解説し、今後出題されそうな重要事項について講義する。</p> <p>1.免疫系のしくみ① 2.免疫系のしくみ② 3.免疫系のしくみ③ 4.免疫系のしくみ④ 5.免疫学的検査① 6.免疫学的検査② 7.免疫学的検査③ 8.免疫学的検査④ 9.輸血・移植検査① 10.輸血・移植検査② 11.輸血・移植検査③ 12.輸血・移植検査④</p>	実務家教員 専任:小野寺利恵	1
臨床生理学演習	<p>循環機能、神経・筋機能、呼吸器系、感覚機能、画像検査に関する基礎知識と関連事項の確認と応用を行い、国試問題に関して傾向と対策を考え演習する。アクティブラーニングルームを用いて演習解き解答を発表解説する事で理解が深める。</p> <p>1.細胞・組織 2.代謝・ホメオスタシス 3.器官系 4.器官系 5.循環機能 6.循環機能 7.循環機能 8.呼吸機能 9.呼吸機能 10.呼吸機能 他 11.超音波 12.超音波 13.脳波・筋電図 14.脳波・筋電図 15.脳波・筋電図 他</p>	実務家教員 専任:溝淵亜矢、石河健	2
関係法規・臨床検査技師	<p>「臨床検査技師、衛生検査技師等に関する法律」を中心に医療関係法規や保健・医療・公衆衛生・福祉に関する法律をとおして法の概念を学び、医療関係職種との連携を密にする。</p> <p>1. 法の概念 2. 衛生検査技師法の制定 3. 臨床検査技師等に関する法律 I 4. 臨床検査技師等に関する法律 II 5. 医療・保健・福祉 I 6. 医療・保健・福祉 II 7. 労働関係法規 8. 臨床検査と医療過誤 9. 臨床検査と医療過誤</p>	実務家教員 専任:谷口薫	1
検査管理学	<p>臨床検査技師として必要である医療情報などの基本的な取り扱いや検査部門の運営、管理について理解しておくことは大切である。また、検査データを扱う部門としての精度管理法の概念や管理方法を学ぶ。更に、最新の管理システムや求められる臨床検査技師の役割についても学ぶ。</p> <p>1.臨床検査の意義 2.検査部門の管理と運営 3.精度管理 I 4.精度管理 II 5.精度管理 III 6.精度管理 IV 7.基準範囲と臨床判断基準 8.検査情報の活用</p>	実務家教員 専任:石河健	1
感染予防学	<p>検査室では様々な疾患の検体を取り扱うことから、臨床検査技師の感染リスクは非常に高いと言わざるを得ない。採血時の事故などにも迅速に対応しなければならない。また、病院も常時院内感染の危険にさらされている。これらの感染対策について学ぶ。</p> <p>1.感染症の発生要因 2.スタンダード・プリコーション 3.感染経路別予防策 4.消毒薬の消毒効果判定法 5.検査業務感染とバイオセーフティ 1 6.検査業務感染とバイオセーフティ 2 7.環境管理 1 8.環境管理 2</p>	実務家教員 専任:石河健	1

検査総合管理学演習	<p>臨床検査技師国家試験科目の検査総合管理学分野として検査管理学と関係法規を講義する。過去に出題された問題の演習を中心に解説し、重要項目について講義をする。</p> <p>1.国家試験過去問題解説 2.国家試験過去問題解説 3.国家試験過去問題解説 4.国家試験過去問題解説 5.国家試験過去問題解説 6.国家試験過去問題解説 7.国家試験過去問題解説 8.国家試験過去問題解説</p>	実務家教員 専任:谷義薫	1
検査特論Ⅱ	<p>医療の現場において技術的にも精神的にも信頼される臨床検査技師として社会に貢献するための職業意識を強くもたなければならない。そのためには国家試験受験に向けての学習の仕方や専門知識の習得、また、集団及び個々のコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を育てるための講義・講演および面接指導を行う。</p> <p>1.臨地実習前実技確認(3年前期) 2.就職活動に向けての心構え(3年前期) 3.国家試験に向けての勉強の仕方(3年後期)</p>	実務家教員 専任:谷口薫、石河健	1
臨地実習	<p>臨地実習は病院実習とする。2年間の学内教育により、ある程度臨床検査についての知識と技術が身についてくる。これらの集大成として3年生で行うのが病院実習である。病院検査室で現場の体験を積むことにより、実際の検査のやり方やシステムを理解する。また現場では沢山の苦しんでいる患者様がおり、患者様を中心としたチーム医療が行われており、互いの連携のもとに効率的な医療が行われている。実際の検査技術を磨くことはもとより、制度管理を学び使命感も養われることを期待する。この期間に人間的な成長をとげることができ、社会に適応する能力も培われるものと思われる。</p> <p>1. 一般検査 2. 生化学検査 3. 血液学検査 4. 免疫・血清学的検査 5. 生理機能検査 6. 病理学検査 7. 細菌学検査 8. 輸血・移植検査 9. 救急救命センター 10. 病院内関連施設見学 11. その他</p>	実務家教員 臨地実習先職員 医師、臨床検査技師	8

専門科目単位数

89

実務家教員担当科目 授業概要(教養科目)
2019年度開講科目

授業科目の名称	講義等の内容	備考	単位数
こころと行動	<p>人間の行動の背景には様々なこころの動きがある。モノがあふれる現代、人々の関心は内面へと向い心理学に対する関心もますます高まっている。本講義では、日常的なトピックスからこころの深層の世界までさまざまな題材を取り上げながら、心理学についての理解を深める。</p> <p>1. オリエンテーション 心理学とは? 2. 感情・情動 3. 感覚・知覚 4. 記憶の心理学 5. 学習心理学 6. こころの発達(1) 7. こころの発達(2) 8. 対人認知と印象形成 9. 集団と組織の理解 10. 欲求・動機づけ 11. パーソナリティ・性格 12. 知能と創造性 13. ストレスと適応 14. 心理学的支援と心理臨床 15. まとめ</p>	<p>実務家教員 専任:高田晃治</p>	2
人間関係論	<p>人間関係は我々の生活の基本であり、人間が人間として生きていくために不可欠な要素である。本講義では、日常生活で経験する様々な人間関係を取り上げながら、これまでの研究による知見を紹介し、心理学的観点からその意味を検討していく。</p> <p>1. オリエンテーション:人間関係論とは? 2. 自己と他者 3. 人間関係の発達(1):乳児期 4. 人間関係の発達(2):幼児期～学童期 5. 人間関係の発達(3):青年期・成人期・高齢期 6. 恋愛関係の心理学 7. 家族関係の心理学(1) 8. 家族関係の心理学(2) 9. 地域社会とコミュニティ(1) 10. 地域社会とコミュニティ(2) 11. 地域社会とコミュニティ(3) 12. 集団力学 13. 組織の心理学 14. 「さよなら」の心理学 15. まとめ</p>	<p>実務家教員 専任:高田晃治</p>	2
フレッシュマン・セミナーⅠ	<p>この授業は、初年次教育として、学園の沿革、地域の学習、地域連携等、本学の学生として充実した学生生活を過ごすための学習面と生活面のガイダンスで構成されています。学生としての責任ある行動や心構えを学び、個々の目標に沿った学生生活を送る指針としていただきたい。</p> <p>1.学科講義,コミュニケーションアワー 2.カウンセリングルーム 3-14. 学園の沿革,地域の学習,地域連携,ボランティア活動などに関する講義,および学生生活の過ごし方,勉強の仕方などに関する講義 15. 学科講義,コミュニケーションアワー</p>	<p>実務家教員 専任:多尾綾音</p> <p>非常勤講師: 上野隆一郎、 三浦勇二、加藤一生、 梶本淑子他、学外施設の 職員</p>	1
フレッシュマン・セミナーⅡ	<p>この授業では、自己の適性に合った卒業後の進路選択の方法、就職活動の仕方や試験対策、就職の心構えなどを学ぶ。卒業後の進路は、就職、四年制大学への編入、専門学校への進学など多岐にわたっている。授業を通して、自分の進みたい進路や自己の適性に合った業種・職種を早く見つけ、個々の目的に向かって進んでいただきたい。</p> <p>1. 学科講義,コミュニケーションアワー 2.カウンセリングルーム 3-14.就職対策講座(一般常識:国際情勢・国内情勢・地球環境。自己分析・適正テスト。就職活動体験報告など) 15. 学科講義,コミュニケーションアワー</p>	<p>実務家教員 専任:多尾綾音</p> <p>非常勤講師: 恵美純子、柏木昭彦、 赤江裕紀、後藤茂、 柚川義之介他、学外施設の 職員</p>	1
キャリアアップセミナーⅠ	<p>就職活動のためのより実践的な勉強を行う。会社訪問のための身だしなみセミナーやマナー、企業の求める人材、職場での心構えやマナーなどを学内外の講師から学ぶ。また、社会で活躍する卒業生からは、仕事内容、仕事上の苦労話などを聞く。社会への視野を広げ社会の中で生きていくためには何が必要かを学んでほしい。</p> <p>1. 学科講義,コミュニケーションアワー 2.カウンセリングルーム 3-10.就職対策(マナー、面接、SPIなど実践的な講義) 11-14.就職対策講座(学科別:一般常識) 15.学科講義 コミュニケーションアワー</p>	<p>実務家教員 専任:多尾綾音, 津村なみえ</p> <p>非常勤講師: 宇都宮幹二 河浜一也、他、学外施設の 職員</p>	1
キャリアアップセミナーⅡ	<p>この授業では、よき社会人として生きていくための心構えや一般常識を学ぶ。職場や社会でよい人間関係を築き、充実した人生を歩んでいくにはどうしたらいいかを学び、人間的に成長していただきたい。</p> <p>1.学科講義,コミュニケーションアワー 2.カウンセリングルーム 3-10.卒前教育(マナー、法律、新社会人のためのライフプラン・キャリアプランなど) 11-14.専門教育講座(学科別) 15. 学科講義,コミュニケーションアワー</p>	<p>実務家教員 専任:多尾綾音</p> <p>非常勤講師: 寺本佳代、信清勇弘、 さとうみどり、藤原輝、 川岸典子他、学外施設の 職員</p>	1

母と子の健康	<p>女性として自分の身体の構造を知り、女性のライフステージ各期の身体の変化と健康や起こりうるさまざまな疾患について解説する。また、社会問題である性感染症に付いて知り、正しい予防法と避妊法の知識を深めてもらう。妊産婦・新生児から小児までの健康・疾患を知り、母子を取り巻く環境問題や制度・政策について学ぶ。</p> <p>1. OR・母子保健 2. 女性の生理的特徴 3. 女性のライフステージと関連疾患① 4. 女性のライフステージと関連疾患② 5. 女性のライフステージと関連疾患③ 6. 女性のライフステージと関連疾患④ 7. 妊産婦の健康上の問題① 8. 妊産婦の健康上の問題② 9. 妊産婦の健康上の問題③ 10. 妊産婦の健康上の問題④ 11. 妊産婦の健康上の問題⑤ 12. 新生児 13. 成長と発達 14. 小児の疾患・事故 15. 妊産婦の健康上の問題⑥</p>	<p>実務家教員 非常勤講師： 井上富美江</p>	2
<p>デスエデュケーション論 (生命倫理)</p>	<p>医療の進歩に伴い、生命をめぐる倫理的課題が山積みしている。本授業では生命にかかわる医療職者として、基盤となる考え方を理解するとともに、自己の在りようを考察する。さらに、倫理的問題に対するための基本となる知識・技術・態度を習得するために、事例やワークをとおして学びを深める。</p> <p>1. ガイダンス/ 生と死を考える 2. 臨床における倫理① 3. 臨床における倫理② 4. 生死をめぐる倫理的課題① 5. 倫理原則とは 6. 生殖医療から生命の考える 7. 臓器移植から生命の考える 8. 事例から生命の考える① 9. 事例から生命の考える② 10. ホスピスケア/緩和ケア 11. 死にゆく人の心理 12. 臨死期・看取り 13. 生死をめぐる倫理的課題② 14. 学習内容から生命を考える① 15. 学習内容から生命を考える②/まとめ</p>	<p>実務家教員 非常勤講師： 堀田悦子</p>	2
インテリアプランニング	<p>超高齢社会、環境問題など今やさまざまな問題を抱えた社会にあって、充実した生活を送る基盤となる住まいは、快適なものでありたい。 インテリアの基礎知識を通し、あらゆる意味での快適住空間を考える。また、プランする。</p> <p>1. まずはインテリアについて 2. あかり 3. カラー色々 4. 快適キッチン 5. 和のかたち 6. インテリアイメージ&スタイル 7. 光と風。ウインドウまわり 8. 暮らしとサイズ 9. インテリアアクセサリー 10. バリアフリー&ユニバーサルデザイン 11. インテリア図面の見方 12. インテリアプランニング I 13. インテリアプランニング II 14. トータル作品作成 15. トータル作品仕上げ</p>	<p>実務家教員 非常勤講師： 白井周子</p>	2